大分大学外科研修プログラム

第1版 2016年1月27日
第2版 2017年9月15日
第3版 2018年4月　1日
第4版 2025年4月　1日

大分大学外科研修プログラム管理委員会
〒879-5593
大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1-1
TEL　097-586-5843
E-mail　oitagps@oita-u.ac.jp

OITA UNIVERSITY

ようこそ大分大学外科研修プログラムへ

プログラム統括責任者　猪股雅史

皆さんは自身の将来をどのように描いていますか？　大学やハイボリュームセンターで高度に専門化した外科医療を実践するのか、それとも地域の基幹病院で幅広い疾患を診療するのか、中には開業を目指している人もいるでしょう。また、海外留学や国内留学、大学での研究を通して新しい医療分野を確立したり、さらには連携病院の花形外科医を目指すのも素晴らしいと思います。皆さんの外科医としての素晴らしい夢が実現できるように、指導体制や研修施設、研修到達度の見える化など、いろいろな面で工夫し、日々の充実した外科研修を行えるのが大分大学外科研修プログラムです。

この研修プログラムは、大分大学の４つの外科学講座が一体となり、35の連携病院とともに専門研修施設群を形成し、専攻医の皆さんが外科医として必要な基本的診療能力を習得しうるプログラムを完成させました。大学病院では、基本的な外科医療に加え、消化器外科および呼吸器外科にて、日本トップレベルの内視鏡外科手術やロボット支援手術（da VinciおよびhinotoriⓇ）を、心臓血管外科では、低侵襲心臓手術（MICS）や経カテーテル的弁置換術（TAVR/TAVI）など、最先端の手術手技も経験できます。癌治療では、手術をはじめ最新の治療体系を有した腫瘍学全般を習得することができます。

施設内にスキルスラボ、サージカルラボ（SOLINE）、カダバーラボ（CST）を設置し、シミュレーション教育が利用できる場としても全国から注目されています。一方、連携施設では、教育型病院、実践型病院、プライマリケア型病院の３つのカテゴリーに位置づけし、それぞれの特色のある病院群で、魅力ある研修を実践しています。プログラム終了後は、さらに高度なサブスペシャリティ領域の専門研修へと連続性をもって繋がるよう工夫されており、大学院博士課程への進学や留学支援制度に基づく海外留学の機会も提供しています。また高度救命救急センターとのタイアップのもと、救急専門医とのダブルボード取得も可能です。

初期研修中の皆さん、学生の皆さんには、美しい空と海と山、そして温泉にめぐまれた素晴らしい環境を持つ大分の地で、ぜひ一緒に切磋琢磨し、明るい未来を切り拓きましょう！

消化器・小児外科領域責任者

猪股 雅史
消化器・小児外科学講座教授

出身大学・卒業年度： 大分医科大学（現 大分大学医学部）1988 年卒業
主な専門領域： 消化器外科、内視鏡外科、腫瘍外科
好きな言葉： 生命に最も近い職業は外科医である！
モットー： ピンチはチャンス！ チャンスはさらにチャンス！
特技： 大分県温泉マイスター

外科は魅力的だ。３Dといわれる<u>D</u>ynamic、<u>D</u>ramatic、<u>D</u>reamyな診療科だ。その中で活躍する外科医はさらに魅力的だ。３Hといわれる<u>H</u>and（技術）、<u>H</u>ead（知識）、<u>H</u>eart（心）の要素を活かし、高難度の進行癌手術やハイリスクの緊急手術も完璧にやってのける。最先端のロボット手術や癌ゲノム医療に基づく集学的治療など、TechnologyとOncologyの両立を実践できる。
時には困難な壁にぶち当たるが、常に指導者がいて、仲間がいて、多職種連携チームがいて、何より家族の支えも重要だ。Work in life balanceの中で、大学病院と35の連携病院群とが協力して、質の高い外科専門医研修が実現できるように、指導体制、研修プログラム、研修環境を整えている。研修終了後のサブスペ専門研修との連携や、大学院進学による研究活動、留学支援制度に基づく海外留学、ライフイベントの際のサポートなど、幅広く充実しています。
ぜひ一緒に、外科医としての楽しさとやりがいを感じてみませんか！

心臓血管外科領域責任者

宮本 伸二
心臓血管外科学講座教授

出身大学・卒業年度： 大分医科大学（現 大分大学医学部）1985 年卒業
主な専門領域： 心臓血管外科学
好きな言葉： 夢に手足を
モットー： 困ったときがチャンスです♬
特技： イラスト、マンガ作成

外科学を選んだあなたはよほど欲張りか、結構いい加減な人なのでしょうね。僕もそうでした。大志など、こんな恵まれた時代にはなかなか抱けません。働いて、学んでいるうちに次のしたいことが生まれてきて…それをやりつづけていたら少し遠い目標が現れてくるかもです。明るく、楽しく、真剣に仕事に遊びに突っ込んでいってください。僕らがやっていることがすべて正しいはずはありません。君たちが是正し、発展させる意気込みで堂々と挑んできてほしいものです。

呼吸器・乳腺外科領域責任者

小副川 敦
呼吸器・乳腺外科学講座教授

出身大学・卒業年度： 九州大学 2000 年卒業
主な専門領域： 呼吸器外科、腫瘍外科、内視鏡外科
好きな言葉： 始めてしまえば半分終わったも同じ
モットー： 和而不同
特技： フットサル、キャンプ、長編ゲーム

外科医になることは、長編ゲームに挑むのに似ています。いくつものミッションをクリアし、スキルを身に付け、仲間を増やし、更なる難関に挑みましょう！始めるのにはほんの少しの勇気がいりますが、始めてしまえば半分終わったも同じ、あとは大分大学外科研修プログラムにお任せください。外科医といえば個性的で好きなことをやっている印象ですが、ものすごく協調性があり、仲間が困っていればすぐに駆け付け、一緒に解決してくれます。
呼吸器外科では、肺がんをはじめ、縦隔腫瘍、外傷、感染症など多彩な疾患を扱います。乳腺外科では乳がんを一貫して扱い、初診から手術、薬物療法まで行います。我々は、肺がん、乳がん治療におけるトランスレーショナル研究を着実に継続しつつ、手術や臨床については、最短で一人前になれるような指導方針で教育しています。さあ、一緒に腫瘍外科の修練を積み、胸部外科、乳がん治療のスペシャリストを目指しましょう。

地域医療領域責任者

上田 貴威
総合外科・地域連携学講座教授

出身大学・卒業年度： 佐賀医科大学（現 佐賀大学医学部）1997 年卒業
主な専門領域： 消化器外科、内視鏡外科、地域医療学
好きな言葉： No Rain, No Rainbow
モットー： 患者さんに寄り添える外科医でありたい
特技： 映画について語る、長時間のドライブ

ようこそ、外科の世界へ！そして、ようこそ、大分大学の外科研修プログラムへ！　昨今、外科医の減少が話題となっています。「こんな時に外科医を選択する医師には相当な覚悟が必要？」。いえ、そんな覚悟は必要ありません。外科に興味があって、手術に興味があって、何より患者さんを治したい、という気持ちさえあれば、このプログラムで必ず一人前の外科専門医になることができます。大分大学の４つの外科学講座、そして大分県下の専門研修連携施設の外科医の先輩たちが、「大分に良質な外科医を１人でも多く！」を合言葉に、文字通り「オール大分」で皆さんの外科研修をフルサポートするからです。「外科医にはなりたいけど、専門科はまだ決められない」。「外科研修をしながら、専門領域を決めていきたい」。「とりあえず外科専門医にはなりたい」。そんな方々も本研修プログラムでは大歓迎です。
後悔することのない外科医人生があなたを待っています！

消化器・小児外科学講座

呼吸器・乳腺外科学講座

心臓血管外科学講座

総合外科・地域連携学講座

外科専門研修プログラムの理念・使命
（日本専門医機構）

＜外科専門研修プログラムの理念＞

外科専門研修プログラムに基づき病院群が以下の外科専門医の育成を行うことを本制度の理念とする。なお、外科専門研修プログラムの研修期間は３年以上とする。外科専門医とは医の倫理を体得し、一定の修練を経て、診断、手術適応判断、手術および術前後の管理・処置、合併症対策など、一般外科医療に関する標準的な知識とスキルを修得し、プロフェッショナルとしての態度を身に付けた医師である。規定の手術手技を経験し、一定の資格認定試験を経て認定される。また、外科専門医はサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科）やそれに準じた外科関連領域の専門医取得に必要な基盤となる共通の資格である。この専門医の維持と更新には、最新の知識・テクニック・スキルを継続して学習し、安全かつ信頼される医療を実施していることが必須条件となる。

＜外科専門研修プログラムの使命＞

外科専門医は、標準的かつ包括的な外科医療を提供することにより国民の健康を保持し福祉に貢献する。また、外科領域診療に関わる最新の知識・テクニック・スキルを習得し、実践できる能力を養いつつ、この領域の学問的発展に貢献することを使命とする。
専攻医は外科専門研修プログラムによる専門研修により、以下の６項目を備えた外科専門医となる。
（１）外科領域のあらゆる分野の知識とスキルを習得する。
（２）外科領域の臨床的判断と問題解決を主体的に行うことができる。
（３）診断から手術を含めた治療戦略の策定、術後管理、合併症対策まですべての外科診療に関するマネージメントができる。
（４）医の倫理に配慮し、外科診療を行う上での適切な態度と習慣を身に付けている。
（５）外科学の進歩に合わせた生涯学習を行うための方略を修得している。
（６）外科学の進歩に寄与する研究を実践するための基盤を取得している。

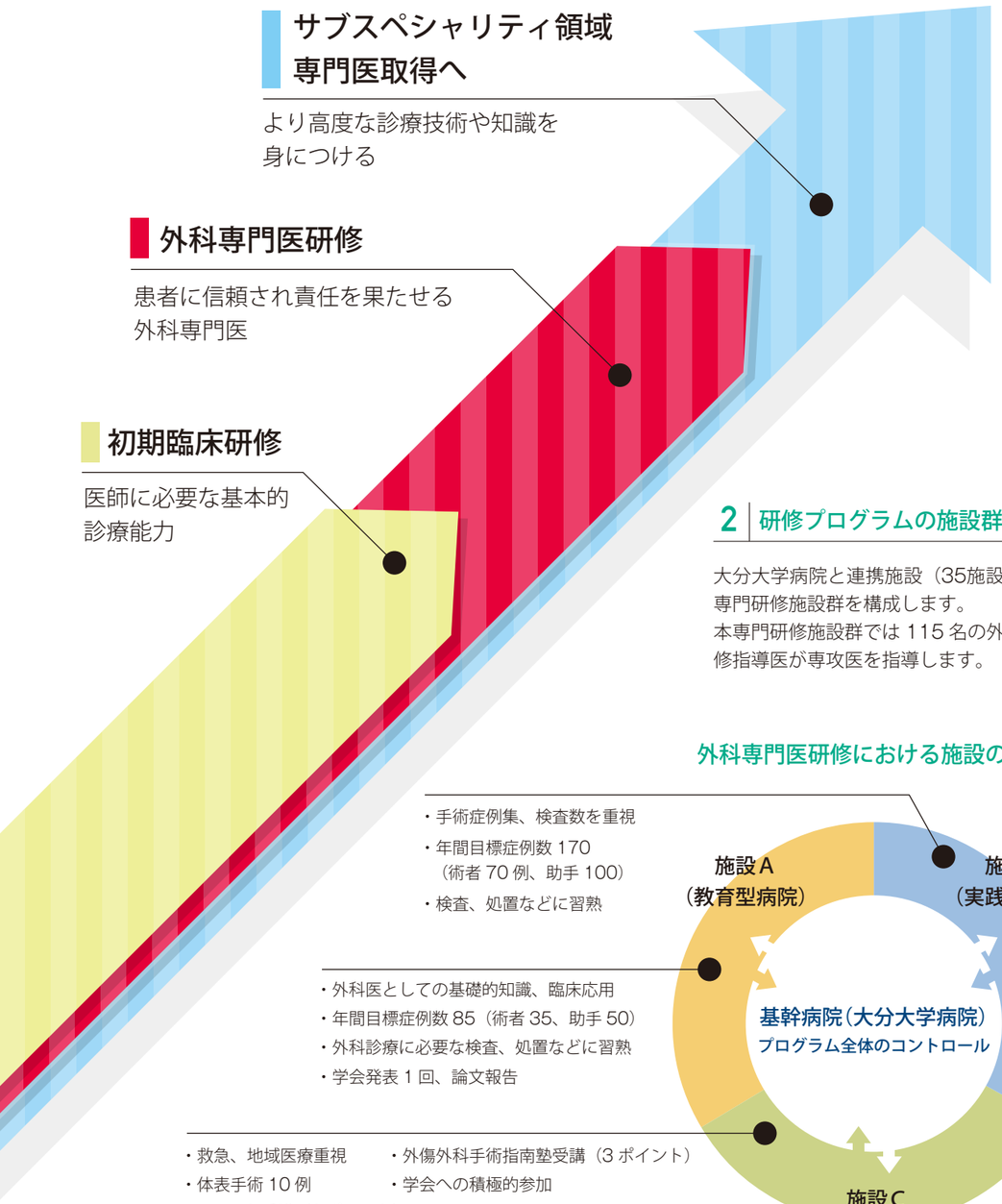
OITA UNIVERSITY

大分大学外科専門研修プログラムの特徴

大分大学外科専門研修プログラムは、以下の特徴を有し、プロフェッショナリズムとアカデミズムを兼ね備えた外科専門医を育成します。

1. 大分大学がミッションとして掲げる低侵襲治療をキーワードに、最新の内視鏡外科手術システムや手術用ロボット、またハイブリッド手術室を駆使した最先端の外科医療を学びつつ、構内に設けられた専用トレーニング施設（Animal Labo, Cadaver Lab）で手術手技習得の修練を行う事ができます。
2. 外科学、外科腫瘍学における evidence-based medicine（EBM）を実践するとともに、臨床研究を介して新たな EBM 創出に携わる事で、外科医療の質向上に貢献する事ができます。
3. 連携施設においては、教育型病院、実践型病院、プライマリケア型病院のカテゴリーに分け、各施設の特色ある研修を行い、多くの症例経験を通して手術手技のみならず、周術期管理、コモンディジーズへの対応、地域医療について、幅広く学ぶ事ができます。
4. 外科専門医取得後のサブスペシャリティへの移行を見越した「スペシャルコース」、学位取得を目標とした「アカデミックコース」を設定し、幅広いニーズに対応します。
5. 「海あり、山あり、温泉あり」の大分の素晴らしい自然の中で、多くの実績ある指導医のもと、安心して生命の尊厳に向き合い、外科専門医を目指す事ができます。

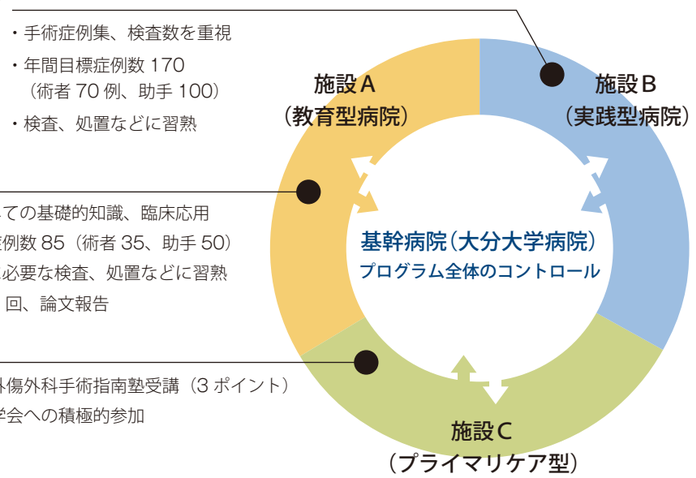
1 大分大学外科チームが目指すシームレス外科専門医教育



2 研修プログラムの施設群

大分大学病院と連携施設（35施設）により専門研修施設群を構成します。
本専門研修施設群では 115 名の外科専門研修指導医が専攻医を指導します。

外科専門医研修における施設の役割



＜ 大分大学外科研修プログラム　研修施設群一覧 ＞

専門研修基幹施設

名　称（五十音順）	都道府県	研修可能な専門領域						責任者名
		消化器外科	心臓血管外科	呼吸器外科	小児外科	乳腺内分泌外科	救急その他	
大分大学病院	大分県	●	●	●	●	●	●	猪股 雅史

専門研修連携施設群 A（教育型）

大分県立病院	大分県	●	●	●	●	●	外傷	池部 正彦
大分市医師会立 アルメイダ病院	大分県	●	●	●	●	●	●	白鳥 敏夫
大分赤十字病院	大分県	●	●（血管外科）	●		●	外傷・急性腹症	福澤 謙吾
独立行政法人 国立病院機構大分医療センター	大分県	●				●	●	椛島 章
独立行政法人 国立病院機構別府医療センター	大分県	●	●	●	●	●	外傷	川中 博文
中津市立 中津市民病院	大分県	●	●	●		●	●	福山 康朗

専門研修連携施設群 B（実践型）

臼杵市医師会立 コスモス病院	大分県	●				●		鈴木 浩輔
大分県厚生連鶴見病院	大分県	●		●		●	●	柴田 浩平
社会医療法人恵愛会 大分中村病院	大分県	●					●	麓 祥一
国家公務員共済組合連合会 新別府病院	大分県	●					外傷	田島 正晃
社会医療法人敬和会 大分岡病院	大分県	●	●					迫 秀則
社会医療法人財団 天心堂へつぎ病院	大分県	●					外傷	白水 章夫
津久見市医師会立 津久見中央病院	大分県	●						石川 浩一
独立行政法人地域医療機能推進機構 南海医療センター	大分県	●	●			●	外傷	武内 裕
豊後大野市民病院	大分県	●			●	●	●	甲斐 成一郎
大分県済生会日田病院	大分県	●		●		●		尾﨑 邦博
宇佐高田医師会病院	大分県	●					外傷	江上 拓哉

専門研修連携施設群 C（プライマリケア型）

医療法人三愛会 大分三愛メディカルセンター	大分県	●					救急	藤原 省三
医療法人咸宜会 日田中央病院	大分県	●				●	●	松田 裕之
医療法人恵愛会 中村病院	大分県	●					外傷	立麻 敏郎
医療法人慈恵会 西田病院	大分県	●						島袋 林春
医療法人慈仁会 酒井病院	大分県	●					外傷	有永 信哉
医療法人信和会 和田病院	大分県	●						朝川 孝幸
医療法人野口記念会 野口病院	大分県					●		内野 眞也
医療法人八宏会 有田胃腸病院	大分県	●						末松 俊洋
国東市民病院	大分県	●				●	●	田原 光一郎
医療法人明徳会 佐藤第一病院	大分県	●			●			宮﨑 信彦
社会医療法人社団 大久保病院	大分県	●	●	●		●	外傷	小野 潔
中津胃腸病院	大分県	●						深野 昌宏
医療法人 むねむら大腸肛門科	大分県	●						宗村 忠信

専門研修連携施設 県外

熊本赤十字病院	熊本県	●	●	●	●	●	救急・外傷	鈴木 龍介
社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院	埼玉県		●					加藤 泰之
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県		●					押富 隆
一般財団法人脳神経疾患研究所 附属総合南東北病院	福島県		●					緑川 博文
医療法人医和基会 戸畑総合病院	福岡県	●				●	●	姫野 佳久

3 専攻医の受け入れ数について

本専門研修施設群の３年間ＮＣＤ登録数は約30,000例で、専門研修指導医は100名以上在籍しているため、十分な専攻医受け入れが可能です。これまでの実績等を踏まえ、本年度の募集専攻医数は10名とします。

4 外科専門研修について

１）外科専門医は初期臨床研修終了後、３年（ないし４年）の専門研修で育成されます。

- ３年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低６カ月以上の研修を行います。
- 専門研修の３年間の１年目、２年目、３年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 専門研修期間中に大学院へ進むことも可能です。大学院コースを選択して臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。
- サブスペシャリティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医を習得した年の年度初めに遡ってサブスペシャリティ領域専門研修の開始と認める場合があります。
- 研修プログラムの修了判定には規定の経験症例数が必要です。（専攻医研修マニュアル ― 付録１― 経験目標２を参照）
- 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができます。

２）年次毎の専門研修計画

- 専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。
- 専門研修１年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、病院主催のセミナーの参加、e-ラーニング、書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して、自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修２年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修３年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。

「大分大学外科研修プログラム」では、基本となるコースⅠの他にコースⅡ、コースⅢを設定し、専攻医の皆さんの幅広いニーズに応えます。

＜ 大分大学外科研修プログラムコース ＞

コースⅠ 標準コース ３年間で専門医の取得を目指す！

外科専門医研修 １年目	**連携施設群Ａ**のうちいずれかに所属し研修を行う 消化器・小児外科 / 呼吸器外科 / 心臓血管外科 / 乳腺・内分泌外科	**目標経験症例 85 例以上** （術者 35 例以上）
外科専門医研修 ２年目	**連携施設群Ｂ**のうちいずれかに所属し研修を行う 消化器・小児外科 / 呼吸器外科 / 心臓血管外科 / 乳腺・内分泌外科	**目標経験症例 170 例以上** （術者 70 例以上）
外科専門医研修 ３年目	**大分大学病院および連携施設群Ｃ**にて研修を行う 不足症例に応じて下記領域を３～６ヶ月毎にローテート 消化器・小児外科 / 呼吸器・乳腺外科 / 心臓血管外科 / 救急 / 地域	**目標経験症例 115 例以上** （術者 25 例以上）

コースⅡ スペシャルコース サブスペシャリティ領域を早くから極めたい！

外科専門医研修 １年目ー２年目	**大分大学病院および連携施設群Ｃ**にて研修を行う 消化器・小児外科 / 呼吸器・乳腺外科 / 心臓血管外科　目標経験症例 150 例以上（術者 40 例以上）
外科専門医研修 ３年目ー４年目	**サブスペシャリティ領域に特化した連携施設**にて研修を行う 目標経験症例 250 例以上（術者 100 例以上）

サブスペシャリティ領域の専門医取得へ

コースⅢ アカデミックコース 大学院に早期入学して研究と専門医取得を両立して進めたい！

大学院に進学し、臨床研究または学術研究・基礎研究を開始します。ただし、研究専任となる基礎研究は 6 か月以内とします。（外科専門研修プログラム整備基準 5.11）

外科専門医研修 １年目ー２年目	**連携施設Ｂおよび連携施設群Ｃ**にて研修を行う 消化器・小児外科 / 呼吸器・乳腺外科 / 心臓血管外科　目標経験症例 200 例以上（術者 100 例以上）
外科専門医研修 ３年目ー４年目	**大分大学病院**にて６ヶ月以上の研修を行い、その後大学院に入学します。 目標経験症例 250 例以上（術者 50 例以上）　※目標経験数に至らない場合は、研修期間を延長

基礎研究を進め、博士号取得へ

3）研修の週間計画および年間計画

基幹病院（大分大学病院）における外科専攻医

大分大学医学部附属病院消化器小児外科の専攻医の生活についてご紹介します。
私は卒後３年目であり、外科専攻１年目は病棟医として勤務しています。大学病院では高難度手術やロボット手術が多く、周術期の全身管理や合併症への対応について学ぶことができます。病棟医とはいっても実際に執刀手術や高難度手術の助手を週２－３例、加えて小児外科の手術も２週間に１例担当・助手もしくは執刀します。さらに緊急手術も担当するので経験症例としては合計週に２－５例と幅があります。長時間に及ぶ手術も少なくないですが、術後は達成感を感じながらその日の病棟業務、術後管理、術後報告の準備（手術記録、手術シェーマの作成、病理標本提出）を行う日々です。また術前グループカンファレンスを週に２回、朝の術前・術後報告カンファレンスを週に２回行うため、その資料作成や発表準備、学生指導を通して症例の理解を深めて手術に臨むことができます。暇を持て余す時間などありませんが、上級医の先生方は全員熱く優しくご指導いただき、楽しく毎日を過ごしています。
外科を専攻して１年目ではありますが、将来自信を持って外科の道を進む１歩として臨床的に高難度症例、さらに学術的な要素を持つ大学病院での経験は重要だと感じています。
（文責：消化器・小児外科　藤原 景司）

次に、大分大学医学部呼吸器・乳腺外科での研修プログラムをご紹介します。
呼吸器外科では、肺癌を中心としたさまざまな肺疾患、縦隔腫瘍、中皮腫、膿胸などの胸膜疾患、また胸部外傷や気胸を対象に治療技術を習得します。胸腔鏡手術やロボット支援下手術の実践、さらには進行肺癌への隣接臓器合併切除を含む拡大手術の技術も学びます。専攻医の主体性を重視したトレーニングとして、豚の心肺を使用したウェットラボやご献体を用いたカダバートレーニングなどの Off-the-job トレーニングを積極的に取り入れています。手術の経験も各専攻医の習熟度に合わせ、指導医の細やかなサポートのもとで積み重ねることができます。乳腺外科では、乳癌を中心に診断から手術、周術期管理、進行再発乳癌への薬物療法まで、乳癌診療におけるすべての技術と知識を段階的に習得します。専攻医の時点から多数の症例に携わり、早期から豊富な経験を得ることで専門性を高めていきます。
呼吸器・乳腺外科いずれにおいても、周術期薬物療法の進展により、腫瘍学に関する幅広い知識と経験が重要です。高い専門性を持った他科と連携する腫瘍カンファレンス、大学院での腫瘍の発生や薬剤耐性のメカニズムを探る研究、人工知能を活用した低侵襲手術ナビゲーションの研究、さらに定期的に行う臨床・基礎の抄読会などを通して、最先端の知識を共有・習得する機会を設けています。また、希望者には国内のhigh-volume centerでの臨床留学、さらに国内外でのトランスレーショナルリサーチを行う研究留学の機会も積極的に支援しており、世界に通用する外科医としてのスキルを磨くことが可能です。
当科は、臨床、研究、教育の３分野を融合させた Academic Surgeon を目指すための最良の場であると自負しています。大分からアジア、世界へ通じるような人材育成を目指す一方、地域医療に貢献しつつ、患者さんやご家族の人生をより豊かにする外科医の育成を最大の目標とし、一緒に挑戦していく仲間をお待ちしています。
（文責：呼吸器・乳腺外科　内匠 陽平）

大分大学医学部心臓血管外科の日々の修練についてご紹介します。
心臓血管外科は冠動脈疾患や弁膜症などの心臓疾患の外科治療、大動脈瘤や大動脈解離などの大血管の外科治療および下肢閉塞性動脈硬化症や静脈瘤などの末梢動脈・静脈疾患の外科治療をおこないます。冠動脈バイパス術のように１-２ mm の血管をつなぐ繊細な手術から、３ cm の大動脈をつなぐダイナミックな手術までバリエーションは多彩です。また大きく開胸・開腹する手術から、小開胸での内視鏡手術やステントグラフトのようにカテーテルを使用した低侵襲手術まで修練することが可能です。手術手技を磨くことはもちろんですが、手術前の患者評価からその患者への手術選択および術後管理までを含めて、指導医のもとで外科的思考を臨床を通して一貫して身につけることができます。大学病院では Academic surgeon を目指すべく、臨床だけでなく研究活動、論文執筆や学会発表の指導もおこなわれます。
心臓血管外科は「とにかく忙しい」というイメージですが、働き方改革の時代の中で個人の「Quality of Life」も大切にします。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を合言葉にチームで支え合いカバーします。
手術で止めた心臓が再度動き出す様は感動です。心臓血管外科の手術はどれもアドレナリン全開です。刺激的な毎日を共に過ごしましょう。
（文責：心臓血管外科　首藤 敬史）

連携病院（大分岡病院）の週間計画例

大分岡病院外科の日々の修練について説明します。
手術に関しては腹腔鏡下手術を中心に毎日行っています。消化管・肝胆膵の悪性腫瘍の他、胆石・ヘルニア・虫垂炎・痔疾患なども行っています。当院の最大の特徴は手術施行にあたってのストレスがないことです。麻酔科、手術室をはじめ全部門が手術に協力的です。緊急手術も例外ではなく極めてスムーズに手術を始めることができます。これは麻酔科の常勤医が４人いてその全員が協力的であることが最大の要因です。研修医には手術では助手、主に腹腔鏡下手術のカメラ持ちをお願いしています。２年目研修では熟達度によって胆石や虫垂炎では執刀する機会も作っています。カンファレンスは多職種合同の術前カンファレンスを月曜日、外科だけの術前カンファレンスを水曜日に行っています。月曜日のカンファレンスでは研修医がスライド作成して症例を紹介することで各種疾患の勉強にもなっています。また学会研究会への参加も奨励しています。研修期間中に経験した症例をまとめて地方会だけでなく全国学会にも発表し論文にすることもあります。当院外科での研修を終えるころには外科医としての少しばかりの自信と自覚が芽生えるものと思います。外科を志す熱いハートを持った皆さんと働けることを心よりお待ちしています。
（文責：大分岡病院　荒巻 政憲）

胃腫瘍に対する消化器内科との合同手術風景

執刀風景（腹腔鏡補助下回盲部切除）

１週間の日程　例：大分岡病院

	月	火	水	木	金	土	日
午　前	手術	手術	カンファレンス 総回診 手術	手術	手術	Free	Free
午　後	カンファレンス 手術	手術	手術	手術	手術		

外科専門医プログラム年間スケジュール

※詳細は毎年の公式発表を確認してください。

項　目	時　期	備　考
専攻医登録（一次）	毎年11月初旬	インターネット登録
面接・採用検討	毎年11月中旬	各プログラムで実施
採否通知	毎年11月下旬	一次登録の結果通知
二次登録・最終調整	毎年12月～１月	必要に応じて実施
専門研修開始	毎年４月	日本外科学会入会が必要
外科専門医試験申請期間	毎年６月上旬～６月下旬	インターネット申請
外科専門医試験	毎年８月下旬の日曜日	都道府県単位の試験会場
一次審査結果発表	毎年９月下旬	
二次審査結果発表	毎年11月下旬	
学術発表要件	研修期間中	学会発表または論文発表
学会参加要件	研修期間中	日本外科学会定期学術集会に１回以上参加

5 専攻医の到達目標
（習得すべき知識・技能・態度など）

■ 専攻医研修マニュアル（付録１）を参照してください

6 カンファレンスなどによる知識・技能の習得

■ 基幹施設および連携施設それぞれにおいて、医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聴くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。
■ 放射線診断・病理合同カンファレンス：手術症例を中心に放射線診断部とともに術前画像診断を検討し、切除検体の病理診断と対比いたします。
■ キャンサーボード：複数の臓器に広がる進行・再発癌や、重症の内科合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、消化器内科、腫瘍内科、呼吸器内科、病理部、放射線科、緩和・看護スタッフなどによる合同カンファレンスを行います。
■ 外科症例検討会：３年間の外科専門研修中では、多岐にわたる外科領域疾患・症例を経験します。１例１例を大切にし、新しい知見を学んでいく姿勢は外科医にとって必須といえます。1960年に発足した大分県外科医会では、年３回、大分県内の基幹病院と連携病院の外科医が集い、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科の症例検討会を行っています。若い外科医が本会で初めて外科医として壇上での発表を行うとともに、プレゼンテーションの準備を経験することから、本会は「若手外科医の登竜門」といわれてきました。さらに、本会で発表を経験した若手外科医が全国学会や国際学会へ羽ばたいていくことを目標にしています。

■ 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともにインターネットなどによる情報検索を行います。
■ スキルスラボセンターにて、腹腔鏡や開腹手術の基本トレーニングを行います。また、大動物を用いたトレーニングやカダバートレーニングを定期的に実施し、実際の術式に準じた執刀を行ってもらいます。これらのトレーニングは、大分大学外科プログラムの大きな特色です。
■ 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、e-ラーニング、その他各種研修セミナーや各病院内で実施されるこれらの講習会などで下記の事柄を学びます。
▼標準的医療および今後期待される先進的医療
▼医療倫理、医療安全、院内感染対策

「ハートチームカンファレンス」

現在の医療はチーム医療が大切です。心臓血管外科が参加するハートチームカンファレンスの１つの「SHD（Structural Heart Disease）カンファレンス」を紹介します。心臓弁膜症に対するカテーテル治療をおこなうにあたり、心臓血管外科医だけでなく循環器内科医、麻酔科医、臨床工学技士、放射線技師や術場看護師など多職種が一堂に会して治療計画をたてるカンファレンスです。カンファレンスでは各専門家が活発な議論を交わし、患者さんに対して当院の理念である「患者本位の最良の医療」を提供できるように綿密な治療計画が立てられます。ここには日々ブラッシュアップをかさねスキルアップした各分野の専門家が関与する真のチーム医療の姿があります。マンパワーや設備、資格が充足している大学病院ならではの医療を通じて、全てのチーム医療に通じる基本を学ぶことは、医師としての研修に大切な経験となります。

（文責：心臓血管外科　首藤 敬史）

7 学問的姿勢について

■ 専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。学会には積極的に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表します。さらに得られた成果は論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。
研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。（専攻医研修マニュアル ー到達目標３参照）
■ 日本外科学会定期学術集会に１回以上参加
■ 指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表

8 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれています。内容を具体的に示します。

１）医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）
■ 医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。

２）患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
■ 患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ、患者ごとに的確な医療を目指します。
■ 医療安全の重要性を理解し、事故防止・事故後の対応をマニュアルに沿って実践します。

３）臨床の現場から学ぶ態度を習得すること
■ 臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。

４）チーム医療の一員として行動すること
■ チーム医療の必要性を理解し、チームのリーダーとして活動します。
■ 的確なコンサルテーションを実践します。
■ 他のメディカルスタッフと協調して診療にあたります。

５）後輩医師に教育・指導を行うこと
■ 自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように、学生や初期研修医および後輩専攻医とともに患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を担います。

６）保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること
■ 健康保険制度を理解し、保健医療をメディカルスタッフと協調し実践します。
■ 医師法 ・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。
■ 診断書、証明書が記載できます。

キャンサーボード

各がん種毎に定期的に医療スタッフ（外科医、腫瘍内科医、放射線治療医、病理医、看護師、薬剤師など）が集まり、選定された症例についての資料が共有されます。それぞれの専門分野から患者にとって最も効果的な治療アプローチについて意見を述べます。外科医は手術の適応やリスクについて、腫瘍内科医は薬物療法や化学療法の選択肢、放射線治療医は放射線の適応や副作用、病理医は病変の特徴や悪性度などを議論します。この決定事項は記録に残され、治療方針として患者やその家族に伝えられます。症例によっては治療経過が共有されフィードバックが行われます。このように、キャンサーボードは患者にとっての最善の治療を目指すとともに、医療スタッフ全体の知識向上や連携強化に寄与する重要な場となっています。

（文責：呼吸器・乳腺外科　内匠 陽平）

キャンサーボード	参加医師	開催時期
消化器（肝・胆・膵）	消化器外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線科	隔週木曜 17:30～
消化管（胃・大腸・直腸）	消化器外科、腫瘍内科、病理医	隔週月曜 17:30～
呼吸器（肺、縦隔、胸膜）	呼吸器外科、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線科	隔週月曜 18:30～

9 施設群による研修プログラムおよび地域医療、救急医療について

1）施設群による研修
本研修プログラムでは大分大学病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。大学だけの研修では稀な疾患や治療困難例が中心となり、コモンディジーズの経験が不十分となります。この点、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します。このような理由から施設群内の複数の施設で研修を行うことが非常に大切です。大分大学外科研修プログラムのどのコースに進んでも指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分配慮します。
施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、大分大学外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

2）地域医療の経験
（専攻医研修マニュアル 一付録１一 経験目標３ 参照）
地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- 本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院、地域中小病院）が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。
- 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

3）救急医療の経験
（専攻医研修マニュアル 一付録１一 経験目標２ 参照）
大分大学救急部および地域の連携病院では救急現場における多くの症例を経験することができます。また、救急医療において必要な救急処置に関する講習会についても受講し資格を取得することができます。以下に本研修プログラムにおける救急医療についてまとめます。

- 本研修プログラムでは、高度救命救急センターに指定されている大分大学附属病院高度救命救急センターと連携します。詳細は「Q. 外傷診療の経験・外傷外科医（Acute Care Surgeon）を目指した研修が行えますか？」についてを参照ください。

国際学会参加報告

2024年８月25日から５日間マレーシアのクアラルンプールで開催された International Surgical Week（ISW）に参加しました。ISWは外科医療の発展を目的とした国際学会で、第50回目の開催でした。

私は胃癌手術支援 AIシステムの開発（演題名：Utility of virtual annotated images to recognize anatomical landmarks by AI in bleeding scenes during laparoscopic gastrectomy）について口演発表をしました。腹腔鏡下胃切除術（LG）における AIシステムの開発は、LGの合併症である膵液瘻を減らすことを目的とした研究です。しかし、高難度症例の一部シーンでは出血による術野汚染のため AIシステムによる手術支援が困難でした。そこで、画像生成 AIを活用した AIシステムの教師データ拡充がこの課題を解決する可能性があることを発表しました。この発表で悪性疾患に関する研究発表に与えられる最優秀演題賞の Kitajima Prize Award を受賞しました。今後も研究成果を国内外へ発信し国際社会へ貢献をしたいと思います。

（文責：研修医 ２年目　藤島 玲央）

大動物を用いたトレーニング

大分大学外科研修プログラムの特徴として、大動物（ヤギ、ブタ）を用いた手術トレーニングがあります。これは、専用トレーニング施設「SOLINE」を利用し、心臓手術や内視鏡外科手術を実際の術式に準じて行うものです。専攻医３名で１チームを編成し、術者・助手・スコピストのすべてを実際に経験することで、手術の醍醐味を味わうとともに、手技の向上を目指します。

（文責：消化器・小児外科　遠藤 裕一）

SOLINE での手術実習

Q 地域医療の経験について教えてください。

A 地域における総合外科学を幅広く学ぶことができます。

地域医療の経験は、大分県全域の連携病院において可能です。地域の最前線で併存症やＡＤＬ低下を有する高齢患者に対する外科手術、救急医療、プライマリケア、周術期管理、術後フォローなど「地域における総合外科学」を実践しながら明日から役立つ幅広い知識と経験の習得ができます。

また日常診療で頻度の高い疾患、いわゆるcommon diseaseの患者さんに対し、どのように診断がなされ、治療が行われ、回復していくのか。そしてその医療を支える看護師、理学療法士、臨床検査技師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなどのMedical staffの役割を実際に目で見て、体験して学ぶことができます。病院・施設によって設備や人材が異なる中で、限られたリソースを用いてどのように地域外科医療がなされるのか、そのためにどのような知識、技術、医療材料が必要になってくるのかを理論立てて考えることができるようになり、このことは医師にとって極めて有用なスキルとなります。

（文責：総合外科・地域連携学講座　平塚 孝宏）

Q 外傷診療の経験・外傷外科医（Acute Care Surgeon）を目指した研修が行えますか？

A Acute Care Surgeon だけでなく、救急専門医の取得も可能です！

大分大学医学部附属病院は大分県唯一の高度救命救急センターを有しており、大分県ドクターヘリの基地病院としても診療を行なっています。

高度救命救急センターでは救急救命科の医師のみならず、消化器外科、整形外科、循環器内科など多くの専門診療科の医師が専属医師として救命センターに所属しており、協力して重症患者に対する診療を行なっています。

特に重症外傷症例に対する診療はドクターヘリによる集約化が進んでおり、消防と連携した迅速な医師派遣体制による病院前診療、ドクターヘリによる迅速な搬送、それに続く救急外来での蘇生的治療が一貫して行われる体制を整備しております。当然、救急外来では蘇生的手術（蘇生的開胸・開腹手術）が常時行える体制を整えています。

また、大分大学医学部附属病院は日本救急医学会指導施設のみならず、日本外傷学会専門医施設、腹部救急医学会認定施設に認定されており、専門性を持った外傷外科に対する研修が行えます。

しかしながら、全国的に蘇生的手術を含む重症外傷症例に対する手術治療は減少しています。それらを補填するために、救命救急講座および消化器・小児外科講座を中心に様々なOff the job trainingを定期開催しています。大動物を用いたSSTTコースは九州で唯一定期開催しており、ご遺体を用いたC — BESTおよびASSETコースも解剖学講座のご指導により定期開催しています。これらのコースは外科学会専門医取得時の外傷手術の経験にもカウントされており、効果的に外傷手術について学ぶことができます。

現在、外傷外科は外科学会のサブスペシャリティには認定されておりませんが、Acute Care Surgeonを目指す若手医師に対して、十分な教育体制を整えており外科専門医取得後の救急専門医取得（ダブルボード）も柔軟に対応します。

（文責：高度救命救急センター　消化器・小児外科　柴田 智隆）

Q メンター制度・ロールモデルについて教えてください。

A よき先輩医師に出会うこと。外科医としての成長をサポートします！

メンター制度とは・・・
知識と経験を有した先輩医師（メンター）が、後輩医師（メンティ）に対して行う個別支援です。キャリア形成、職場内での悩みなどの問題解決をサポートします。

ロールモデルとは・・・
あなたが将来目指したいと思う、模範となる存在であり、そのスキルや具体的な行動を学んだり模倣をしたりする対象となる人材のことです。

大分大学外科専門医プログラムは、あなたの「今」と「未来」を全力でサポートします！
外科医の仕事は、「手術」という大きな使命を果たす、やりがいに満ちたものです。しかし、常に進化する医療技術と知識を習得し続ける厳しい世界でもあります。最新の技術を学び、実践するためには、膨大な時間と努力が必要です。大分大学外科専門医プログラムでは、こうした挑戦を乗り越え、あなたの成長を支える多彩なメンターが揃っています。多様なロールモデルから自分に最適な指導医を選び、専門医の道を歩む３年間だけでなく、その先の未来についても共に考え、相談できる環境が整っています。

（文責：消化器・小児外科　遠藤 裕一）

■ さらに、連携病院においては、地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。

10 専門研修の評価について

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は、施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。専門研修の１年目、２年目、３年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアルVI（専門研修の評価）を参照してください。

11 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である大分大学病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。「大分大学外科研修プログラム」管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、事務局代表者、外科の４つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。専門研修指導医は日本外科学会定期学術集会またはサブスペシャリティ領域学会の学術集会、それに準ずる外科関連領域の学会の学術集会、基幹施設などで開催する指導講習会、ＦＤなどの機会にフィードバック法を学習し、より良い専門研修プログラムの作成を目指します。管理委員会では、この活動に対するサポートも行います。

12 専攻医の就業環境について

１）専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。

２）専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルスに配慮します。
■ 本研修プログラムでは、メンター制度を導入し、３年間のプログラム進行状況の確認や精神的なサポートを行います。

３）専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

13 修了判定について

３年間の研修期間における年次毎の評価表および３年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年（３年目あるいはそれ以後）の３月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

14 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専攻医研修マニュアル（付録１）VIIIを参照してください。

15 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

研修実績および評価の記録
外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録）を用いて、専攻医は研修実績（NCD登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年１回行います。大分大学外科にて、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

◉専攻医研修マニュアル

◉専攻医研修実績記録フォーマット
「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はＮＣＤに登録します。

◉指導医による指導とフィードバックの記録
「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

16 専攻医の申請・採用方法と専門医取得

申請・採用方法
まず日本専門医機構の「専攻医登録システム」から、専攻医登録を行います。次に日本外科学会のホームページより新専門医制度INDEXを選択し、必要な書類を作成し、オンラインにて登録してください。申請期間は年度ごとに替わりますので、必ずホームページで確認してください。申請者は大分大学外科専門医プログラム統括責任者との面談を経て、承認・採用され、翌年４月から研修が開始されます。また研修開始までに、日本外科学会への入会が必要ですので、必ず入会するようお願いいたします。日本外科学会へ入会することで、専門研修を管理するための研修実績管理システムの利用が可能となります。

研修終了・専門医試験
新専門医制度による研修を行われている専攻医のうち、所定の３年間の研修期間及び手術経験や学術活動といったすべての要件を充足し、プログラム統括責任者から専門研修の修了判定を得た専攻医は、新専門医制度の外科専門医試験を受験することができます。申請はすべてインターネットを介します。日本外科学会ホームページ（外科専門医試験申請システム）より申請が行えます（申請期間中にアクセスできます）。日本外科学会が行う１次試験に合格した専攻医は、日本専門医機構の行う２次試験で審査され、合格すれば日本専門医機構より認定証が発行され、外科専門医として認定されます。

お問い合わせ
大分大学外科専門医プログラムへの応募について相談されたい方は、以下のメールアドレスへ問い合わせをお願いします。
oitagps@oita-u.ac.jp

Q 外科専門医取得後の進路、特に留学について教えてください。

A 大分大学では、専門医を取得した後に希望やニーズに応じて国内外へ留学の道も開けています！

専門医取得後、国立がん研究センター中央病院へ国内留学している藤永淳郎先生

肝胆膵外科のスペシャリストを目指して

私は消化器・小児外科学講座に所属し、医師として９年目までに外科・消化器外科の専門医資格と医学博士の学位を取得しました。消化器外科の中でも特に肝胆膵外科を専門とし、医師10年目からは国立がん研究センター中央病院の肝胆膵外科レジデントとして国内留学し、さらなる研鑽を積んでいます。

国立がん研究センター中央病院は、日本のがん医療の最先端を担う施設です。長く続いているレジデント制度のもと、豊富な症例に触れながら、質の高い診療と教育を受けられる環境が整っています。この制度では、がん医療を体系的に学び、専門医としての技術と知識をしっかり身につけられます。また、国内外で活躍する多くのがん専門医もこのセンターでレジデント経験を積んできました。

私がこの留学を希望したのは、がん診療のエキスパートから直接指導を受けながら、多くの症例を通じて肝胆膵外科の高度な知識と技術を習得したいと考えたからです。さらに、全国から集まる意識の高いレジデント仲間たちと互いに刺激し合い、交流を通じて共に成長できることも大きな魅力でした。私は、肝胆膵外科の登竜門である「高度技能専門医」を取得するだけでなく、将来的には大分の肝胆膵医療を引っ張っていける腫瘍外科医としての資質を磨くことを目標に、留学を決意しました。

がんセンターでは、レジデントが実際に難易度の高い手術を執刀する機会も多く、一つひとつの手術が貴重な経験と学びの場となっています。将来、大分に戻った際には、肝胆膵外科医として地域医療に貢献するとともに、次世代の医師たちが成長できる環境作りにも取り組みたいと考えています。大分大学外科専門医プログラムでの経験は、私のキャリアの基礎であり、このプログラムを通じて、地域の肝胆膵医療の発展を志す後輩たちと共に、患者さんに安心と笑顔を届けられるよう努力していきたいと思っています。

1年間、苦楽を共にした全国各地から集まった
レジデント仲間は、一生の友です。

肝胆膵外科、大腸外科、胃外科の合同忘年会。
仕事ばかりでなく、息抜きもあります。

膵頭十二指腸切除術の執刀風景。
当科の膵頭十二指腸切除術の施行件数は、日本一です。

大分トリニータvsFC町田ゼルビア＠町田GIONスタジアム。
この年、町田はJ1に昇格しました。東京に住んでも大分を愛する心は変わりません。

専門医取得後、University of Pennsylvania へ海外留学した内田かおる先生

大分医大心臓血管外科の内田かおるです。2021-2023年の2年間、米国ペンシルバニア州のUniversity of Pennsylvaniaに留学しました。Gorman Cardiovascular Research GroupというLabでブタやヒツジを用いた僧帽弁リングの効果実験などを行いました。興味深い研究もさることながら、個人的には異国の地で暮らしたことそのものがよい経験となりました。それまで常識と思っていたことが海外では通用せず、逆もまた然りでした。その違いのルーツや、彼らの行動原理や価値観、思考のプロセスを知るのは面白かったです。また、大動物実験で扱うブタやヒツジのかわいさにも日々癒されました。帰国後は夢から醒めた気分で元どおりの日常を過ごしていますが、アメリカ生活を経て視野は広く深くなったように思います。2年間も海外で仕事をできる機会は人生でもそうないので、このような貴重な経験の機会を与えてくださった宮本教授と、不在の間を支えてくださった医局員の先生方に感謝しています。

連携病院一覧

大分県立病院群外科専門医育成プログラム

〒870-8511　大分県大分市豊饒２丁目8-1
TEL　097-546-7111　　FAX　097-546-0725
E-mail　t-utsunomiya@oitapref-hosp.jp

病　床　数	医 師 数(人)	1日平均外来患者数(人)	1日平均入院患者数(人)
557	196	830	410

病院の特徴

当院は、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、乳腺外科の外科専門医修得に必要な５領域とも修練施設認定を受けている県内でも数少ない医療機関のひとつです。日本専門医機構より、新専門医制度における「基幹施設」としての承認を2018年に受けており、県下で最も効率的な外科専門医研修が可能です。
総合病院の特徴を生かし、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科などの充実したスタッフとの連携で様々な術前併存症を有する高齢者に対しても高度な外科医療を提供しています。

研修症例の特徴

当院は、昭和47年に臨床研修病院に指定され、研修医の受け入れを行ってきました。
新制度の臨床研修が始まった平成16年度には５名の研修医が、令和５年度は38名（１年次22名、２年次16名）の研修医が当院での臨床研修を行っています。
また、従前より自治医科大学の卒後臨床研修や大分大学医学部、九州大学医学部、長崎大学医学部他から研修医を受け入れており、実績、指導体制も充実しています。

診療科名

循環器内科、内分泌・代謝内科、消化器内科、腎臓・膠原病内科、呼吸器内科、血液内科、神経内科、放射線科、外科（消化器、乳腺）、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、救急救命センター、小児科、新生児科、産科、婦人科、臨床検査科（病理）

大分市医師会立アルメイダ病院

〒870-1195　大分県大分市大字宮崎1509-2
TEL　097-569-3121（内1241）　　FAX　097-568-0743
E-mail　soumuka@almeida.oita.med.or.jp

病　床　数	医 師 数(人)	1日平均外来患者数(人)	1日平均入院患者数(人)
406	64	138	270

病院の特徴

1969年に大分市医師会による紹介型の医師会立病院として開院、かかりつけ医との密接な連携のもと地域中核病院として急性期疾患を中心とした医療を担っています。この間1978年には大分県初の救命救急センター認定、1998年には地域医療支援病院承認など常に時代のニーズに合った機能を備えてきました。
2008年には災害拠点病院として大分県初の免震構造を採用した安全性の高い新病院へ移転、2010年には地域がん診療連携協力病院にも指定されています。1557年ポルトガルの宣教師で医師でもあったルイス・デ・アルメイダが私財を投じて府内（大分市）に日本で初めての洋式病院を建て、そこには医学校や育児院も併設され多くの住民の診療を行ったと伝えられています。

研修症例の特徴

紹介型の医師会立病院としての症例の多様性、充実度評価Ａランクの救命救急センターを併設し、１次救急から３次救急まで救急医療を広く担い、災害拠点病院として地域医療に貢献しています。県内有数の症例数の心カテ、内視鏡、年間手術2,500件、外来50,000人、入院7,000人、救急搬送2,300件に及ぶ豊富な症例を短期間に経験することができます。

診療科名

内科、内分泌内科、血液内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、放射線科、外科、脳神経外科、呼吸器外科、血管外科、整形外科、形成外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、小児科、新生児内科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、精神科、眼科、耳鼻いんこう科

大分赤十字病院

〒870-0033　大分県大分市千代町３丁目2-37

TEL　097-532-6181　　FAX　097-533-1207
E-mail　jinji-kyu@oita-med.jrc.or.jp

病　床　数	340	医 師 数(人)	77	１日平均外来患者数(人)	502	１日平均入院患者数(人)	273

病院の特徴

当院は、病床数340の一般病床を有する急性期病院で28の診療科を標榜しています。高齢化社会における疾病構造の変化、スタッフの専門分野、赤十字の使命、県都の中心部に位置するLocationなどを鑑み、災害・救急医療、がん診療、生活習慣病の急性期医療を３本柱として、最良の医療を提供することを使命としています。加えて、赤十字の使命でもある災害拠点病院として、天災、集団災害に備える諸活動を展開するとともに、救急部は「365日24時間」の体制を敷いています。また、厚生労働省より地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、「大分のがんセンター」をめざして質の高い集学的治療の実現を目指してがん診療を推進しています。

研修症例の特徴

初期研修の２年間においては、プライマリ・ケアと救急医療に重点を置いた研修を行います。研修医にとって漫然とした研修にならないよう常に上級者の指導を受けつつ診療を行い、各ローテート科において到達度チェック試験を実施し、きちんと知識を整理しつつ研修を行ってもらいます。各種の勉強会も盛んで、単なる講義形式ではなく研修医参加型の勉強会を行っています。救急疾患に関しても365日、24時間体制で研修医Callを実施し、重要な救急疾患（急性冠疾患症候群・急性腹症など代表的な17疾患）に対応可能となるように成長をサポートします。

診療科名

内科：一般内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科、肝胆膵内科、循環器内科、リウマチ科、腎臓内科、脳神経内科
外科：外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、腎･泌尿器外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、血管外科、救急科

独立行政法人 国立病院機構 大分医療センター

〒870-0263　大分県大分市横田２丁目11番45号

TEL　097-593-1111　　FAX　097-593-3106
E-mail　617sy01@hosp.go.jp

病　床　数	285	医 師 数(人)	常 勤 34 非常勤 16	１日平均外来患者数(人)	245	１日平均入院患者数(人)	200

病院の特徴

当院は昭和54年４月に現在地で国立大分病院として開院、平成16年４月、独立行政法人化し、国立病院機構大分医療センターと改称し現在に至っている。大分市東部地区や県南地域の中核病院として診療を行っている。政策医療としてのがん、肝疾患診療を加え、急性期疾患診療にも重点を置き、診療・臨床研究・教育研修を推進し、臨床研修指定病院の指定も受けている。がん診療については平成23年より大分県がん診療連携協力病院の認可を受けている。救急に関しては平成12年より大分市２次救急医療固定輪番制（365日24時間体制）の指定を受けている。地域医療連携室の充実も図られ、オープンシステム（開放型病院）や医療機器の共同利用など通して地域医療に貢献し、平成21年から地域医療支援病院として認定されている。平成23年からは災害派遣チーム大分DMAT指定病院となっている

研修症例の特徴

消化器外科を専門とする指導医や専門医、認定医が常勤し、悪性疾患（消化器外科・乳癌）に関して外科手術や癌化学療法、放射線療法などを行っている。良性疾患に対する手術にも力を入れており、代表的疾患としては胆石症、鼠径ヘルニア、虫垂炎、消化管穿孔や腸閉塞などについて積極的に治療を行っている。緊急患者については夜間休日を含め24時間オンコール体制で対応している。週１回の消化器合同カンファレンスを開催している。救急に関しては平日の日勤帯は外科を中心とした外科系診療科のメンバーが当番制で救急車のファーストコールを担当している

診療科名

代謝･内分泌内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、外科、（呼吸器外科）、整形外科、泌尿器科、婦人科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、（小児科）、（眼科）

（　）は休診

独立行政法人 国立病院機構 別府医療センター

〒874-0011　大分県別府市内竈1473番地

TEL　0977-67-1111　　FAX　0977-67-5766
E-mail　618-syomukakarichou@mail.hosp.go.jp

病　床　数	492	医 師 数(人)	107 (研修医を除く)	１日平均外来患者数(人)	527	１日平均入院患者数(人)	278.2

病院の特徴

当院はがん医療、周産期・小児医療、脳血管障害、虚血性心疾患、糖尿病、救急医療の分野で専門的な診療、臨床研究、教育研修を実践しています。さらにそれ以外の医療分野についても充実し、大分県地域支援病院であり県北唯一の総合病院として地域医療の中心的役割を果たしています。外科は、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、血管外科、心臓外科のスタッフが専門的診療を行うとともに、外科全体で発展すべく毎朝カンファレンスで情報の共有と人材交流に努めています。診療科間で自由に研鑽を積み、外科専門医制度専攻医の教育・研修の向上を図っています。

研修症例の特徴

全診療科にわたり、急性期から慢性期まで多くの症例を経験でき、日常診療では多くの指導医より直接指導を受けることができます。さらに各診療科の上級医による基礎講座をカリキュラム内に組んでおり、研修した症例を中心に幅広い臨床知識と技術を学ぶことができます。

診療科名

循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病･代謝内科、腎臓内科、脳神経内科、精神科医、リウマチ科、小児科、血液内科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、血管外科、心臓外科、整形外科、脳神経内科、皮膚科、形成外科、腎泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科・口腔外科、病理診断科、救急科、総合診療科

中津市立中津市民病院

〒871-8511　大分県中津市大字下池永173番地

TEL　0979-22-2480　　FAX　0979-22-2481
E-mail　soumu2@nakatsu-hosp.jp

病　床　数	250	医 師 数(人)	53	１日平均外来患者数(人)	293.2	１日平均入院患者数(人)	206.6

病院の特徴

大分県北部の唯一の公立中核病院であり、福岡県京築地域も含めた医療圏の地域医療支援病院として、がん診療拠点病院、がんゲノム医療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、地域に急性期医療を提供しています。がん診療では、低侵襲手術に薬物療法や放射線治療も併せた集学的治療により高い根治性を目指し、緩和ケア病棟も備えて良質ながん医療の実践に努めています。また、近年は年間約3500台と県内トップクラスの救急搬送があり、2024年から救急科を新設し救急医療を充実させる一方、医師時間外労働はＡ水準を満たしています。

研修症例の特徴

外科研修では、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、心臓血管外科、小児外科など幅広い領域の研修が可能です。内視鏡手術やロボット支援手術など高度な技術の修練とともに、関係診療科とのカンファレンスを通して疾患の理解を深め、豊富な救急症例を経験することで一般外科医としての総合診療力を身につけることができます。

診療科名

内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、臨床腫瘍科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、肛門外科、乳腺外科、内視鏡外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、小児外科、泌尿器科、産婦人科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、病理診断科、口腔外科

臼杵市医師会立コスモス病院

〒875-0051　大分県臼杵市大字戸室1131-1
TEL　0972-62-5599　　FAX　0972-62-3928
E-mail　kosuzuki@oita-u.ac.jp

病　床　数	医 師 数(人)	1日平均外来患者数(人)	1日平均入院患者数(人)
180	16	100	150

病院の特徴

外科、内科、整形外科、麻酔科など各分野の専門医・指導医が揃い、臼杵市内の２次救急を担っている。また急性期医療のみならず、市民健康管理センターや老人保健施設南山園、訪問看護ステーション、介護支援センターなどの関連施設と連携し、臼杵市民の健康や生活に包括的に携わっている。
一方、臨床だけではなく当院は全国に先駆けて医療DXに取り組んでおり、臼杵市の医療デジタルネットワーク「うすき石仏ねっと」は県内外から高い評価を得ている。また、認知症研究においては、大分大学や行政、企業と共同研究を行ない、臼杵から新しいエビデンスが発信できるように取り組んでいる。

研修症例の特徴

当科での腹部手術は腹腔鏡下で行うことが多く、主な手術症例は鼠径部ヘルニア、急性虫垂炎、胆石症・胆嚢炎などのいわゆる「common disease」である。これらを担当・執刀することで、外科医としての基礎的な技術や判断力を培ってもらう。技術が上がれば胃切除術や大腸切除術などの中高難度手術も執刀する機会もある。
手術だけでなく消化器内視鏡にも力を入れており、通常の上下部内視鏡検査手技の習得はもちろん、内視鏡治療にも取り組んでもらう。

診療科名

外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、血液内科、総合診療科、麻酔科、放射線科、皮膚科

大分県厚生連鶴見病院

〒874-8585　大分県別府市緑丘町12-1
TEL　0977-23-7111　　FAX　0977-23-7884
E-mail　shibatakohei@gmail.com

病　床　数	医 師 数(人)	1日平均外来患者数(人)	1日平均入院患者数(人)
233	60	473	201

病院の特徴

当院は1948年（昭和23年）に設立され、当初は結核や精神疾患が主体の病院でしたが、現在は20診療科に約60名の常勤医師が勤務し、各種の癌、心疾患や脳卒中などの循環器病、高血圧や糖尿病などの生活習慣病など、幅広く対応しています。病床は全て急性期病床で、大分県東部医療圏の急性期疾患に対応しています。内科の体制・隣接する健診センター・病診連携、いずれも安定して運営されており、外来・入院とも活発です。外科は消化器外科（常勤医４名）、呼吸器外科（常勤医２名）、乳腺外科（常勤医１名）で対応し、年間手術件数は消化器外科が約500件、呼吸器外科が約100件、乳腺外科が約40件です。常勤麻酔医が２名おり、安定した全身麻酔手術が施行できています。

研修症例の特徴

消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科の手術を経験できます。消化器外科では腹部疾患として消化管・肝胆膵領域両方を経験でき、急性腹症・ヘルニアなど一般外科も多数経験できます。呼吸器外科は肺癌をはじめ、膿胸・気胸などの緊急手術、乳腺外科では乳癌の手術を経験できます。またシャントなどの簡易的な血管外科手術も勉強する機会が得られます。医局は全診療科共通の１ルームで、診療科間の垣根が低く、他科の先生も含めて活発に交流できます。年間約2000台の救急車を受け入れており、緊急手術は勿論ですが様々な内科的な疾患も経験できます。

診療科名

消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、血管外科（非常勤医師）

社会医療法人恵愛会 大分中村病院

〒870-0044　大分県大分市舞鶴町１丁目４番１号
TEL　097-536-5050（代表）　　FAX　097-573-8030（代表）
E-mail　nakamura1190@nakamura-hosp.or.jp

病　床　数	医 師 数(人)	1日平均外来患者数(人)	1日平均入院患者数(人)
260	40	225.7	229.6

病院の特徴

2024年１月、当院は、大分駅から東へ２キロ、大分川舞鶴橋のたもと、北に別府湾が一望できる地に移転新築（地下１階地上７階、260床、27診療科）しました。「病気だけでなく、本気で、人間と向き合う。」を“こころざし”とし、二次救急医療とリハビリテーションを二本柱として、大分市中心部で地域包括ケアのハブ病院となることを目指している社会医療法人です。救急搬送は年間約2000台ほどで、手術室は４室、年間手術数約1800件です。

研修症例の特徴

当院外科では、胆石症・胆嚢炎、腸閉塞、鼠径・大腿・腹壁瘢痕ヘルニア、急性虫垂炎、腹膜炎、痔核・痔瘻等の良性疾患及び食道がん、胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆道がん等の消化器系悪性疾患に対する外科治療、抗がん剤治療、緩和医療を中心とした診療を行っており、外科治療については、胃、大腸等の各種疾患に対し、消化管穿孔、急性虫垂炎、急性胆嚢炎等の緊急手術に腹腔鏡を用いた低侵襲手術を積極的に取り入れております。抗がん剤治療については、消化器がんをはじめとする各種固形がん、原発不明がんに対する治療も積極的に行っています。

診療科名

整形外科、脊椎外科、手外科、外科、腫瘍外科、脳神経外科、内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、総合診療科、呼吸器内科、緩和ケア内科、形成外科、泌尿器科、リハビリテーション科、肛門外科、リウマチ科、心臓血管外科、婦人科、骨盤底リハビリテーション科、放射線科、皮膚科、麻酔科

国家公務員共済組合連合会 新別府病院

〒874-8538　大分県別府市大字鶴見3898番地
TEL　0977-22-0391　　FAX　0977-26-4170
E-mail　soumu@shinbeppu-hosp.jp

病　床　数	医 師 数(人)	1日平均外来患者数(人)	1日平均入院患者数(人)
269	44	265.7	191.7

病院の特徴

当院は病床数269床の県北における地域中核病院です。Science ＆ Humanityの理念のもと急性期対応病院として地域医療に貢献しています。大分県で４施設の「救命救急センター」の認可を受けており、年間3000台を超える救急車の搬入を受け入れています。厚生労働省が進める４疾病５事業（急性心筋梗塞、脳卒中、がん、糖尿病、救急医療、災害医療、へき地医療）に積極的に取り組んでいます。また、高齢化社会における骨関節疾患増加に対応すべく「人工関節センター」を開設しています。「がん」についても年間10000例に及ぶ内視鏡を実施している消化器内科をはじめ外科、呼吸器内科で消化器癌や肺癌対策に尽力しています。

研修症例の特徴

救命救急センターに搬送される急性冠症候群、急性脳血管障害、多発外傷、中毒といった救急疾患症例・ICUで行われるPCPS、体温管理療法、CHDFなどの高度集中治療を要する心配蘇生後、敗血症、重症膵炎などの重症症例、種々の手術（外科、整形外科、眼科）症例、麻酔科での気管挿管訓練と麻酔症例、糖尿病、パーキンソン病、COPDなどの慢性疾患症例、肺癌・消化器癌などの悪性腫瘍症例、放射線科での画像診断レッスンと血管治療症例。このような多彩かつ豊富な症例を学んでいただきます。

診療科名

外科、肛門外科、消化器外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科、眼科、心臓血管外科、麻酔科、救急科、内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、内分泌・代謝内科、リウマチ科、腎・臓内科、リハビリテーション科

社会医療法人敬和会 大分岡病院

〒870-0192　大分県大分市西鶴崎３丁目７番11号
TEL　097-522-3131（代表）　FAX　097-522-3777
E-mail　office@keiwakai.oita.jp

病　床　数	医 師 数(人)	1日平均外来患者数(人)	1日平均入院患者数(人)
203	39	205.2	185

病院の特徴

心血管センター、消化器病センター、創傷ケアセンター、救急・総合診療センター、大分サイバーナイフがん治療センター、口腔顎顔面センターの６センターあり、チーム医療を積極的に導入しています。個々の医師が専門性を活かしながら協力し合うことで、迅速かつ効果的な医療を提供しています。心筋梗塞や狭心症などの循環器系の疾患に救急対応できるのも大きな特色のひとつであり、外来で可能な症例からICU管理が必要な重症例と幅広い症例を経験することができます。
また、ドクターカーの導入や大分DMAT参加など、救急医療の提供に力を入れています。

研修症例の特徴

二次救急指定病院として年間3,000件ほどの救急車を受入れています。特に外傷や循環器疾患の患者さんが多く搬送されます。多様な症例にファーストタッチできると同時に循環器疾患に於いては内科的治療と外科治療双方を行っており専門領域に踏み込んだ治療を経験することもできます。

診療科名

心臓血管外科、循環器内科、救急科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、内科、消化器内科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、胸部外科、神経内科、腎臓内科、糖尿病内科、呼吸器内科、腫瘍内科、血液内科、皮膚科、リハビリテーション科、歯科・口腔外科、矯正歯科

社会医療法人財団 天心堂へつぎ病院

〒879-7761　大分県大分市大字中戸次字二本木5956番地
TEL　097-597-5777　FAX　097-597-5833
E-mail　anan_takashi@tenshindo.org

病　床　数	医 師 数(人)	1日平均外来患者数(人)	1日平均入院患者数(人)
188	21	184	150

病院の特徴

へつぎ病院は包括医療病棟59床、地域包括ケア病棟59床、回復期リハビリテーション病棟56床、緩和ケア病棟14床の計188床の２次救急指定病院です。当院は地域密着型医療機関として、専門医による診断と治療を行い、患者様一人ひとりに寄り添ったケアを心掛けています。内科、外科、整形外科、循環器、呼吸器、小児など多岐にわたる診療科を設け、急性期から終末期、在宅医療まで幅広い医療・介護ニーズに対応できる体制を整備して、地域完結型医療を提供しています。また、予防医療や健康診断にも力を入れ、地域の健康づくりに貢献しています。
へつぎ病院は、今後も地域ニーズに応じた医療体制の提供を目指します。

研修症例の特徴

プライマリケアの基本を２年間で修得できる（救急・入院・外来の基本手技・処置・対応など）
地域包括医療の全般を知ることができる
予防から終末期医療までのすべてを体験でき、それぞれのステージにおける医療倫理的対応・対処方針が修得できるトリアージ能力の修得

診療科名

内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、消化器内科、外科、腹部外科、小児科、麻酔科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、形成外科、放射線科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、アレルギー科、リウマチ科、神経内科、皮膚科、大腸肛門外科、血管外科、血液内科、精神科、緩和ケア内科

津久見市医師会立津久見中央病院

〒879-2401　大分県津久見市大字千怒6011番地
TEL　0972-82-1123　FAX　0972-82-8411
E-mail　e-office@tsukumi.oita.med.or.jp

病　床　数	医 師 数(人)	1日平均外来患者数(人)	1日平均入院患者数(人)
120	9	124.8	104.8

病院の特徴

津久見市の医療・福祉・保健ゾーンの拠点として津久見市医師会が開設した市内唯一の病院です（急性期一般病棟：52床、地域包括ケア病棟：42床、特殊疾患療養病棟：26床）。一次医療を担う医師会員診療所の後方支援病院として、大分大学医学部と連携して地域住民に医療サービスを提供しています。へき地医療拠点病院であり、24時間の救急医療体制、巡回診療（四浦地区、無垢島）などにも力を入れています。地域の医療・福祉・保健の中核として、津久見市や併設の介護老人保健施設つくみかんを代表とする介護保険関連の事業所、併設の市民健康管理センター、訪問看護ステーションなどと緊密に連携しています。

研修症例の特徴

市内唯一の救急標榜施設であり幅広い症例が集まるため、救急初期対応の研修が可能です。また、高齢で併存疾患を多く有する患者の急性期から回復期、慢性期にかけての診断、治療、退院支援など多岐にわたる医療活動を経験しながら、医師として必要な問題解決能力を身につけることができます。外科では一症例を診断、適応決定から手術、治療、経過観察までを通して担当します。消化器内視鏡検査・治療も経験できます。各診療科の垣根はなく気軽に相談可能で、メディカルスタッフも非常に協力的です。高齢化・人口減少先進地域での外科医療、多職種協働チーム医療を実践できます。

診療科名

内科、循環器科、糖尿病内科、腎臓内科、総合診療科、呼吸器科、消化器科、外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、小児科、心療内科、放射線科、リハビリテーション科

独立行政法人 地域医療機能推進機構 南海医療センター

〒876-0857　大分県佐伯市常盤西町７番８号
TEL　0972-22-0547　FAX　0972-23-4083
E-mail　main@nankai.jcho.go.jp

病　床　数	医 師 数(人)	1日平均外来患者数(人)	1日平均入院患者数(人)
195	25	309.9	148.5

病院の特徴

当院は、昭和22年（1947年）に開院、全国に57ある地域医療機能推進機構（JCHO）病院の一つで、南部医療圏唯一の公的病院として地域医療の中核を担っています。今後30年以内の発生確率が80%程度に引き上げられた南海トラフ巨大地震を想定し、2020年１月に震度７の地震に耐えうる免震構造を有する新病院に新築移転しました。救急診療を行う急性期病院、がん診療病院、災害拠点病院である一方、県内で初めて人工透析を開始し、人工透析ベッド60床を有して透析医療の充実をはかっていることも当院の大きな特徴です。高齢化が右肩上がりで上昇する中、南部医療圏唯一の地域医療支援病院として、ニーズに応じた医療を提供しています。

研修症例の特徴

急性期病院であることから、初期診療から各種検査手技を幅広く経験することができます。外科症例としては、common diseaseへの対応から癌に対する外科手術や化学療法、また外傷対応、シャント造設を含む末梢血管手術、乳腺疾患に対する手術等、多岐にわたる症例を経験できます。プライマリーケアから高度医療に至るまで、患者一人ひとりの背景を考慮した全人的医療を実践し、他科医師や看護師・コメディカルとの連携を通じて、チーム医療の重要性を学び、これにより総合的な診療能力を養い、幅広い視野を持った外科医としての基盤を築くことができると考えています。

診療科名

循環器内科、消化器内科、血液内科、総合診療科、外科、心臓血管外科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、救急科、放射線科、麻酔科、腎臓内科、呼吸器内科、内分泌代謝内科、乳腺外科、小児外科、形成外科、皮膚科、脳神経外科

豊後大野市民病院

〒879-6692　大分県豊後大野市緒方町馬場276番地

TEL　**0974-42-3121**　　FAX　**0974-42-3078**
E-mail　**soumu-k@bungo-ohno-hp.jp**

病　床　数	199	医 師 数(人)	21	1日平均外来患者数(人)	299	1日平均入院患者数(人)	159

病院の特徴

平成22年10月に、公立おがた総合病院（旧緒方町国保総合病院）と大分県立三重病院の統合により豊後大野市民病院として誕生しました。豊後大野市は勿論、豊肥医療圏の中核病院として地域の医療を担っています。救急医療から内科・外科・小児科・整形外科・眼科・泌尿器科・婦人科の専門医療さらに在宅医療・訪問看護まで幅広く対応しています。また、平成26年度に地域包括ケア病棟を新設し、平成27年度には回復期リハビリテーション病棟も新設して、長期入院治療から早期の社会復帰・在宅復帰を目指す医療を推進しています。

研修症例の特徴

高齢の多病患者が多く、様々な疾患が学べます。救急車も週に15件程度搬入され、内科・外科・整形外科の救急対応も学べます。さらに訪問診療・訪問看護・巡回診療に参加しての在宅医療、当院療養病床・協力施設での介護を含む福祉についても学習の機会があります。（日本呼吸器学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本外科学会専門医制度修練施設、日本整形外科学会専門医研修施設、日本泌尿器学会専門医教育施設、日本アレルギー学会教育施設認定、日本感染症学会研修施設、日本がん治療認定研修施設、災害派遣医療チームDMAT指定、地域包括医療･ケア認定等）

診療科名

総合内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、内分泌代謝科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、眼科、婦人科、放射線科、麻酔科、脳神経外科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、皮膚科、腫瘍内科、地域医療

大分県済生会日田病院

〒877-1292　大分県日田市大字三和643-7

TEL　**0973-24-1100**　　FAX　**0973-22-1269**
E-mail　**soumu02@saiseikai.hita.oita.jp**

病　床　数	199	医 師 数(人)	30	1日平均外来患者数(人)	220.4	1日平均入院患者数(人)	175.8

病院の特徴

済生会日田病院は、日田玖珠地域唯一の公的病院として、へき地医療、災害医療、感染症医療、救急医療、小児医療を中心に提供し、地域医療の中核を担っています。また、新型コロナウイルス対策を含む感染症対応、訪問診療、訪問看護ステーションの運営を通じ、地域密着型の医療サービスを提供しています。さらに、無料低額診療や刑余者の社会復帰支援を通じて、地域福祉の向上にも貢献しています。

研修症例の特徴

当院は大分県西部医療圏唯一の二次救急医療機関として救急患者の受入を行っており、多数の疾患を取り扱っております。また、急性期や地域包括ケア、回復期、緩和ケアと多様性のある病棟を有しているため様々なフェーズの症例を経験することができます。令和７年４月からはロボット支援手術（ダヴィンチ）を導入し、より高度な医療を提供するとともに外科医の医療技術発展を目指しています。

診療科名

内科、心臓血管内科、消化器内科、血液内科、呼吸器内科、糖尿病･代謝内科、腎臓内科（人工透析）、脳神経内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、頸部外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、小児科、皮膚科、婦人科、リハビリテーション科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科口腔外科

宇佐高田医師会病院

〒872-0102　宇佐市南宇佐635

TEL　**0978-37-2300**　　FAX　**0978-37-2307**
E-mail　**egamitaku@gmail.com**

病　床　数	100	医 師 数(人)	10	1日平均外来患者数(人)	50	1日平均入院患者数(人)	10

病院の特徴

昨今の医師偏在などから地方の医療体制維持が困難になっている中、宇佐市・豊後高田市を中心とした大分県北地域の緊急疾患や悪性疾患に対応するための病院です。

研修症例の特徴

外科は手術症例のうち緊急手術の割合が多く、初期修練医に執刀の機会が多く回ってきます。
また、少数の常勤医で夜間・休日の地域の急患対応をこなす必要があるため、専門的知識のみならず全科的な対応力が身につくはずです。

診療科名

外科、循環器内科、消化器内科、放射線科

社会医療法人三愛会 大分三愛メディカルセンター

〒870-1151　大分県大分市大字市1213番地

TEL　**097-541-1311**　　FAX　**097-542-7460**
E-mail　**nagatomi@san-ai-group.org**

病　床　数	190	医 師 数(人)	35	1日平均外来患者数(人)	428	1日平均入院患者数(人)	162.5

病院の特徴

1970年に開院し2020年に開院50周年を迎えた、南大分、わさだ地区にある病床数190床の二次救急病院である。
外科、整形外科、脳神経外科、麻酔科など外科系診療科があり、外傷センター、脳卒中センター、消化器病センターを構成している。また内科、消化器内科、循環器内科、放射線科も標榜しており急性期病院として充実した医療体制にある。
救急専門医が常勤しており救急車搬入件数は年間2000件を超えている。
充実した診療体制の救急病院として地域の中核病院としての役割を果たし続けている。

研修症例の特徴

救急病院であり、急性腹症や外傷の初期診療を経験できる。
また外科、消化器外科、消化器内科、放射線科により消化器病センターが構成されており様々な消化器病診療を経験できる。消化器内視鏡指導医も常勤しており消化器内視鏡検査、治療の研修も可能である。
近年は特に早期膵癌の診断、治療に力を入れている。

診療科名

救急科、内科、総合診療科、消化器内科、循環器内科、糖尿病 内分泌内科、リウマチ科、呼吸器内科、脳神経外科、呼吸器外科、外科、大腸肛門外科、消化器外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、乳腺外科、泌尿器科、神経内科、放射線科、リハビリテーション科、皮膚科、病理診断科、麻酔科

医療法人咸宜会 日田中央病院

〒877-0012　大分県日田市淡窓２丁目５番17号

TEL　**0973-23-3181**　　FAX　**0973-24-2958**
E-mail　**kangikai@atlas.plala.or.jp**

病　床　数	医 師 数(人)	１日平均外来患者数(人)	１日平均入院患者数(人)
82	10	109.1	47.3

病院の特徴

当院は昭和30年坂本外科医院を開設し、創立60年を迎えました。主に外科・内科・整形外科を標榜する病床数85床（地域包括病床12床含む）、人工透析室37床の病院です。昭和48年より救急指定病院として24時間医療体制を構築しています。平成15年日本外科学会外科専門医制度関連施設指定を受け、その後消化器外科専門医制度関連施設も認定受けました。平成15年院内オーダリングを開始後平成16年電子カルテを導入しました。平成21年日本病院機能評価認定（Ver5）、平成26年日本病院機能評価更新（Ver1）、平成27年外来部門の改装・CT（80列以上）・MRI（1.5テスラ）の高性能な医療機器を導入しました。また医療介護体制の充実を目的に通所リハビリテーションを開設し介護サービスも提供しています。

研修症例の特徴

外科･内科･整形外科の疾患を主に救急を受け救急患者対応も学べます。また消化器外科を主に腹腔鏡下手術も行っています

診療科名

外科・内科・整形外科・麻酔科・循環器科・呼吸器科・消化器科・肛門科・乳腺科・リハビリテーション科

医療法人恵愛会 中村病院

〒874-0937　大分県別府市秋葉町８番24号

TEL　**0977-23-3121**　　FAX　**0977-26-4083**
E-mail　**webmaster@nakamura-med.or.jp**

病　床　数	医 師 数(人)	１日平均外来患者数(人)	１日平均入院患者数(人)
153	13	188	120

病院の特徴

当院は、昭和２年に浜脇に医院として設立され、昭和５年に別府市の流川通りに面した秋葉町に移転し、現在に至っています。別府では老舗の個人病院として、地域の医療を担うとともに、いちはやく救急医療にも取り組み、昭和39年には、厚生省令による救急告示病院に指定されました。また、成人病、老人医療に対しても積極的に対応し、他の医療機関との連携を取りながら地域医療に貢献できるよう努力を続けています。現在の診療科は内科（呼吸器、循環器、消化器、血液内科等）、外科、泌尿器科、整形外科、皮膚科などで構成されています。ベッド数は153床（一般病床57、地域包括ケア病床51、療養病床45）で、高気圧酸素療法、血液透析、衝撃波結石破砕装置などの設備があります。

研修症例の特徴

外科の診療としては、外来、内視鏡検査、病棟、手術に加え、救急対応、検診業務など多岐にわたります。当直は一人当たり月に３～４回程度でそれほど忙しくなく、よく眠れます。
手術数は全科で１年間に計750例ほど、外科の症例は、全身麻酔症例が年間50例前後で、胆石、鼠経ヘルニア、痔疾患を中心に、その他、胃、大腸の悪性疾患などの手術を行っています。腹腔鏡下のヘルニア手術や胃、大腸の腹腔鏡手術も積極的に取り組んでいます。

診療科名

内科、整形外科、泌尿器科、外科、糖尿病内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、肛門外科、消化器外科、皮膚科、形成外科、リハビリテーション科、麻酔科

医療法人慈恵会 西田病院

〒876-0047　大分県佐伯市鶴岡西町2-266

TEL　**0972-22-0180**　　FAX　**0972-24-0503**
E-mail　**rinshunshimabukuro@gmail.com**

病　床　数	医 師 数(人)	１日平均外来患者数(人)	１日平均入院患者数(人)
217	21	470.1	190.1

病院の特徴

昭和10年（1935年）に産婦人科として開院。市民のかかりつけ病院としての役割を果たすために診療科を増やしながら成長してきました。かかりつけ病院としての役割だけではなく、各介護施設や老人施設への訪問診療を行い、地域に根差した業務も行っています。一般病床で急性期疾患に対応し、療養型病床で慢性期疾患の治療を行い、地域完結型医療を目指している病院です。

研修症例の特徴

当院消化器外科では、腹腔鏡下に胆嚢結石、鼠経ヘルニア、急性虫垂炎、胃癌、大腸癌手術を主に行っています。悪性腫瘍に関しては、内視鏡診断、化学療法も行っています。また、粉瘤などの腫瘤摘出、外傷の縫合などの小手術の経験や胆嚢ドレナージなどの穿刺技術の習得も可能です。

診療科名

呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、循環器内科、リウマチ・膠原病内科、内分泌病尿病内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、小児科、皮膚科、放射線科、透析科、眼科

医療法人慈仁会 酒井病院

〒871-0024　大分県中津市中央町1-1-43

TEL　**0979-22-0192**　　FAX　**0979-22-0321**
E-mail　**sakai@sakai24.org**

病　床　数	医 師 数(人)	１日平均外来患者数(人)	１日平均入院患者数(人)
76	7	134	55

病院の特徴

酒井病院は昭和42年の開業以来、地域密着型の医療を提供しており、平成３年に医療法人化してからは基本理念を掲げ、職員一丸となって地域医療に取り組んでいます。患者様に笑顔･やさしさ･思いやりを持って接することを最重視し、常勤の医師がかかりつけ医として全身状態をチェックし、必要に応じて連携病院に迅速に紹介しています。少子高齢化が進む中、国は在宅医療への転換を推進しており、地域包括ケアシステムの構築が重要です。酒井病院では、自宅復帰を目指したリハビリテーションに注力し、地域包括ケア病棟を新設。2021年より一般病棟22床、地域ケア病棟54床の体制で運営し、訪問看護ステーションや各種老人ホームとも連携し、医療と介護をシームレスに提供しています

研修症例の特徴

上記特徴の病院のため、さまざまな患者に対応している。①救急症例：外傷は常勤整形外科医と連携して診断、また骨折などの手術に助手として参加できる。②腹部・消化器：上部・下部内視鏡検査、エコーなどの検査を行い、CTも遠隔読影を依頼できますので、消化器外科の常勤医と連携し迅速な診断を行っている。麻酔医師もおり、手術も行っている。主に良性疾患：胆のう、虫垂切除に対して腹腔鏡下手術を、ヘルニアに対しては腹腔鏡下とオープン法を行っている。③乳腺外科：マンモグラフィーとエコーによる画像診断と針生検、高齢者乳がんの手術を行っている。

診療科名

外科、胃腸科、整形外科、形成外科、内科、泌尿器科、麻酔科

医療法人信和会 和田病院

〒879-1131　大分県宇佐市大字165番地の１

TEL　**0978-37-2500**　　FAX　**0978-37-2502**
E-mail　**wada1@oct-net.ne.jp**

病　床　数	104	医 師 数(人)	6.7	１日平均外来患者数(人)	79.3	１日平均入院患者数(人)	86

病院の特徴

当院は1976年に宇佐市で開設された急性期病床（33床）回復期病棟（26床）慢性期病棟（45床）のケアミックス病院で、宇佐駅前と比較的交通の便の良い場所に所在しております。宇佐市をはじめ、近隣の豊後高田市・杵築市・中津市の周辺地域の患者様に根ざした医療を目指しております。急性期病棟では、外科・整形外科・泌尿器科の手術、消化器内科による内視鏡検査・治療を積極的に行なっております。当院は日本外科学会関連施設・日本消化器病学会関連施設に認定されております。また医療・介護の一体化を目指し、老人保健施設・グループホーム・有料老人ホームが病院に併設しており､「治療から生活復帰、看取りまでできる医療介護環境の取り組み」を強化して行なっています。

研修症例の特徴

（手術症例）消化器外科：（腹腔鏡下・開腹）胆嚢摘出術（腹腔鏡下・開腹）大腸切除術（腹腔鏡下・開腹）虫垂切除術　ヘルニア修復術（TEPPを含む）（腹腔鏡下・開腹）胃切除術　気管切開術　外来小手術など　肛門外科：痔核根治術　内痔核硬化療法（ALTA）痔瘻根治術　直腸脱手術（腹腔鏡下直腸吊り上げ術 Delorme手術）など（内視鏡的治療）胃瘻造設術（PEG）経皮経食道胃管挿入術（PTEG）内視鏡的粘膜切除（EMR）内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）逆行性胆管造影（ERCP）・十二指腸乳頭切開術（EST）および採石術　消化管ステント留置術など

診療科名

内科、外科、消化器内科、消化器外科、肛門外科、整形外科、呼吸器内科、循環器内科、泌尿器科、リハビリテーション科、脳神経外科、皮膚科

医療法人野口記念会 野口病院

〒874-0902　大分県別府市青山町７番52号

TEL　**0977-21-2151**　　FAX　**0977-21-2155**
E-mail　**uchino@noguchi-med.or.jp**

病　床　数	120	医 師 数(人)	18	１日平均外来患者数(人)	203.2	１日平均入院患者数(人)	40.8

病院の特徴

当院は創立103周年（大正11年創設）を迎え、長年にわたり内分泌外科（甲状腺・副甲状腺疾患）の診療と研究にあたってきました。甲状腺・副甲状腺疾患の患者さんが全国各地から訪れ、日本における専門病院の草分け的存在として有名な病院です。甲状腺・副甲状腺の症例数は全国でも突出して多く、当院で学んだ多くの医師が全国各地で甲状腺専門病院や専門クリニックを開業し活躍中です。圧倒的症例数を基に、臨床研究や基礎研究で多くの業績を生み出しています。甲状腺癌症例の追跡調査では追跡率が99%以上、世界でも類をみない50年生存率を算出することができています。一般病院では珍しい遺伝子検査室を備えており、遺伝子解析研究にも力を入れています。

研修症例の特徴

甲状腺は、バセドウ病・甲状腺癌・甲状腺良性腫瘍の手術、副甲状腺は、副甲状腺腺腫、過形成、癌の手術です。手術は平日の毎日午後から２列で計４～５例全麻で行います。１年間で研修医は約500例の頸部手術を経験できます。全例オープンの手術で、局所麻酔の手術や小児の手術も多く経験できます。頚部郭清、気管合併切除、縦隔郭清、気管切開など幅広く経験でき、多くの基本的外科手術手技を習得できます。午前中は外来あるいは病棟回診を担当します。ハイレベルな学会発表や英文投稿もできます。主治医制ではなくチーム医療制ですので、休日やアフター５も充実、満喫できます。

診療科名

外科、内科、放射線科、麻酔科、耳鼻咽喉科、病理診断科

医療法人八宏会 有田胃腸病院

〒870-0924　大分県大分市牧１丁目２番６号

TEL　**097-556-1772**　　FAX　**097-556-1778**
E-mail　**arita-ikyoku@arita-hp.or.jp**

病　床　数	60	医 師 数(人)	9	１日平均外来患者数(人)	100	１日平均入院患者数(人)	50

病院の特徴

当院は消化器専門病院であり、消化器外科２名、消化器内科４名のスタッフがそろっています。手術は、年間約150例とやや少なめですが、胃癌・大腸癌だけでなく、胆嚢結石症・急性虫垂炎・鼠径ヘルニアなどの症例に対応しています。また、内視鏡検査数は、年間で上部約6500例、下部約2500例と県内でもトップクラスの症例数を数え、ESDやEMRの内視鏡治療も積極的に行っています。学会認定の指導施設に関しては、日本消化器内視鏡学会の認定指導施設である他、日本外科学会・日本消化器外科学会・日本消化器病学会・日本大腸肛門病学会の関連施設でもあります。また、慢性期疾患にも対応しており、訪問診療や訪問看護も積極的に行っています。

研修症例の特徴

当院は消化器専門病院ですので、研修症例は消化器疾患中心です。
消化器内科・消化器外科・放射線科が常勤として勤務していますので、腹部超音波検査の実施や診断、CT検査やMRI検査の読影の研修も可能です。また、豊富な内視鏡検査症例とそれに伴う内視鏡治療や、外科的治療の研修も可能です。

診療科名

消化器科、内科、外科、肛門科、放射線科、リハビリテーション科、皮膚科

国東市民病院

〒873-0298　大分県国東市安岐町下原1456番地

TEL　**0978-67-1211**　　FAX　**0978-67-3190**
E-mail　**kunisaki@kunisaki-hp.jp**

病　床　数	199	医 師 数(人)	22	１日平均外来患者数(人)	256.6	１日平均入院患者数(人)	183.7

病院の特徴

国東地域で唯一の公的病院／救急指定病院であり一般診療と二次救急診療を行っています。常勤医は大分大学の各医局からの派遣と地域枠派遣医師および自治医科大学卒業医師で担っており、外科系は消化器外科／乳腺外科、整形外科、耳鼻科、内科系は循環器科、消化器科、呼吸器科、小児科が揃っています。急性期病棟２つと慢性期病棟（回復期リハビリ病棟および地域包括ケア病棟）の４病棟で入院診療を行っています。高齢化の著しい地域でもあり、早くから地域包括医療・ケアに取り組み、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリも積極的に行っています。大分空港に近く、災害拠点病院、大分DMAT指定病院として災害対策にも取組んでいます。また保健分野では人間ドックや企業検診も行っています。

研修症例の特徴

消化器外科の手術症例としては胆石、鼠径ヘルニア、虫垂炎、腸閉塞などの良性疾患が中心で、消化器癌症例では大腸癌と胃癌です。消化器癌以外には乳癌手術も行います。消化器外科医は２～３人体制なので、肝胆膵の高難度症例は主に大学病院に紹介していますが、地域に救急病院がなく比較的多くの救急症例が当院に集まります。手術は大腸癌など悪性疾患を含め基本的に若手医師に執刀をしてもらいます。手術以外には、上下内視鏡検査や外科外来診療、救急診療、がん化学療法から緩和療法まで幅広く担当していただいています。

診療科名

（常　勤）一般内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、小児科、整形外科、消化器外科／乳腺外科、耳鼻咽喉科、麻酔科、歯科口腔外科、リハビリテーション科
（非常勤）泌尿器科、脳神経外科、透析科、婦人科、皮膚科、精神科

医療法人明徳会 佐藤第一病院

〒879-0454　大分県宇佐市大字法鏡寺77-1

TEL　0978-32-2110　　FAX　0978-34-9321
E-mail　meitokukai@sato-d1.com

病　床　数	180	医 師 数(人)	17	1日平均外来患者数(人)	247	1日平均入院患者数(人)	119

病院の特徴

当院の特徴として、脳神経外科は北部医療圏では最も充実した病院の一つであり、リハビリテーション科は北部医療圏でトップクラスの体制で、内科系や外科系など総合的に対応可能な診療科を有する病院です。病床数は180床で、地域包括医療病棟90床、回復期リハビリテーション病棟40床、療養病棟50床を持っています。平成18年３月、国税庁より特定医療法人に承認されました。医療設備としては、64列CT、1.5T MRI、各種内視鏡や各診療科手術用顕微鏡などがあります。地域で年間約850件の救急車受け入れを行っており、救急医療から在宅へのリハビリテーションまで一貫した医療を提供しています。

研修症例の特徴

当院では脳神経外科、消化器内科、整形外科、消化器外科、神経内科、放射線科の専門医がいますので、早期の適切な診断・処置が可能であり、三次救急施設との連携や地域の診療所、介護施設との連携を学ぶことができます。急性期の救急医療から病病連携、病診連携、中間期医療のリハビリテーションから訪問看護・在宅医療まで、地域医療の分野で幅広い研修を行うことができます。

診療科名

内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、内分泌内科、消化器外科、乳腺外科、放射線診断科、脳神経外科、循環器内科、リハビリテーション科、リウマチ科、肛門外科、整形外科、神経内科、麻酔科、膠原病内科、呼吸器内科、地域医療

社会医療法人社団 大久保病院

〒878-0204　大分県竹田市久住町栢木6026-2

TEL　0974-64-7777　　FAX　0974-77-2247
E-mail　jinji@okubo-hp.com

病　床　数	90	医 師 数(人)	8	1日平均外来患者数(人)	123	1日平均入院患者数(人)	71

病院の特徴

当院はくじゅう連山の麓、久住町にあり、急性期医療から介護、在宅医療までを総合的に担う中核病院である。最新の腹腔鏡下及び関節鏡手術をはじめとする各種手術や、高気圧酸素治療・リハビリテーション・MRI・CT電子スコープなどの最新医療機器を駆使した高度機能病院としての役割と通常の地域に密着した病院としての役割を果たしています。また、介護老人保健施設「ヴァル・ド・グラスくじゅう」(85床)・訪問看護ステーション・認知症高齢者グループホーム・小規模多機能型居宅介護施設・夜間対応型訪問介護センター等を併設。法人の総合力で在宅と施設をつなぐ「地域包括支援システム」への取り組みも始めています。今後の高齢社会に対応すべく更なる高度な医療と在宅サービスの充実を目指します。久住は小さな町ですが、人情豊かでさわやかな高原の町です。この町で保健・医療・介護サービスの提供に、職員一同頑張っています。

研修症例の特徴

高齢化率40%、日本でも有数の高齢化地域です。地域中核病院として救急も積極的に受け入れ、地域の救急体制が学べます。訪問看護介護リハビリ、さらには医療と介護の垣根を越えた地域包括支援システムにも取り組み、地域内における医療・介護・福祉を総合的に学習できます。また、医療情報の電子化に積極的に取り組んでいます。

診療科名

内科、循環器内科、神経内科、消化器内科、膠原病内科、呼吸器内科、外科、整形外科、乳腺外科、呼吸器外科、消化器外科（胃腸・肛門）、リハビリテーション科、泌尿器科、婦人科、脳神経外科、総合診療科

中津胃腸病院

〒871-0162　大分県中津市大字永添510番地

TEL　0979-24-1632　　FAX　0979-22-9800
E-mail　nakatsuicho-g@pony.ocn.ne.jp

病　床　数	112	医 師 数(人)	5	1日平均外来患者数(人)	112	1日平均入院患者数(人)	99

病院の特徴

当院は消化器疾患診療を中心とした急性期病院で、胆石症や潰瘍性大腸炎などの良性疾患から胃がん大腸がんなどの悪性疾患まで幅広く診療を行っています。消化器内視鏡検査は上部下部合わせて約4000件、エコー5000件、CT2000件と数多くの検査を行っています。手術は肛門疾患からがんの手術まで年間約300件を行い、最近は腹腔鏡手術も増加しています。また地域包括ケア病床を有し、県北地域の地域包括ケアの入院を中心とした役割を果たしています。14床の緩和ケア病棟も有しており、年間約100人の看取りを行っています。訪問診療センターによる訪問診療と訪問看護が連携して、県北地域随一の在宅診療を行っています。在宅から入院まで切れ目のない診療を行えます。

研修症例の特徴

消化器疾患の基礎から応用まで幅広く学べます。消化器内視鏡は多くの検査や治療内視鏡の実技を学べ、消化器手術も良性疾患から悪性疾患、緊急手術まで幅広く学ぶことができます。緩和ケアや在宅診療に興味のある方は、その両方が切れ目なく学べるのが特徴です。小規模の病院ですが、地域医療を幅広く学ぶには良い病院です。

診療科名

外科、消化器外科、内科、消化器内科、肛門外科、リハビリテーション科、疼痛緩和内科、麻酔科

医療法人 むねむら大腸肛門クリニック

〒870-0844　大分県大分市古国府五丁目１番29号

TEL　097-547-1115　　FAX　097-547-2211
E-mail　munemurac@gmail.com

病　床　数	19（短期滞在手術回復室 3床）	医 師 数(人)	4	1日平均外来患者数(人)	115	1日平均入院患者数(人)	16

病院の特徴

大分市古国府にある当院は、肛門病変、肛門の検査、大腸検査及び手術までを一環として行う診療所です。
主な対象疾患は、痔核、裂肛、痔瘻を中心とした肛門疾患。大腸ポリープ、大腸癌を中心とした大腸疾患。また、クローン病、潰瘍性大腸炎などの炎症性疾患等の治療が対象となっております。手術に関して、大腸癌には、内視鏡的腹腔鏡手術。炎症性疾患には、内科的療法等の治療療法を行っております。昨年の実績は、肛門手術1480例。大腸内視鏡検査4328例。胃内視鏡検査2650例です。

研修症例の特徴

胃、大腸及び内視鏡治療。
肛門疾患の診察、手術など研修していただきます。

診療科名

肛門科、消化器外科、消化器内科

熊本赤十字病院

〒861-8520　熊本県熊本市東区長嶺南二丁目１番１号

TEL　096-384-2111　　FAX　096-384-8862
E-mail　rinsyokensyu@kumamoto-med.jrc.or.jp

病　床　数	490	医 師 数(人)	228	１日平均外来患者数(人)	999.4	１日平均入院患者数(人)	407.1

病院の特徴

１次～３次救急を受け入れる24時間体制の救命救急センターを併設し、「断らない救急」をモットーにこどもからお年寄りまで、軽症者から重症者まで、年間約５万人の救急患者を受け入れている。病院内には２か所の緊急用ヘリポート、大型特殊救護車両を整備し、県の基幹災害医療センターとして中心的な役割を果たしている。また、ドクターヘリの基地病院として、より迅速な初期診療にも対応している。さらに、全国で５か所目、西日本では初となる小児救命救急センターの指定を受け、PICUを併設して県内外の小児重篤疾患にも対応できる体制を整えている。また、国際医療救援部を設置し、医師、看護師をはじめ多くのスタッフを世界各国へ派遣するなど、積極的な活動を展開している。

研修症例の特徴

臨床医師として、基本的な知識・技能を修得し、患者背景を理解しそれに対応できる医師を養成する。心臓血管外科領域を学ぶことで集中治療による全身管理を研修し、医師としての基礎を作ることを目的とする。

診療科名

内科、血液・腫瘍内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、乳腺内分泌外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急科、歯科、歯科口腔外科、精神腫瘍科、病理診断科

社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院

〒350-1305　埼玉県狭山市入間川2-37-20

TEL　04-2953-6611　　FAX　04-2955-4922
E-mail　junichi-takasu@saitama-sekishinkai.org

病　床　数	450	医 師 数(人)	147	１日平均外来患者数(人)	172	１日平均入院患者数(人)	432

病院の特徴

当院は450床の中規模病院ですが、地域医療支援病院、臨床研修指定病院、年間約10,000件の救急搬送を受け入れる救急指定病院、埼玉県がん診療指定病院の機能を有する埼玉西部地区の地域中核病院として、消化器外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科を中心に年間5,000件以上の手術を行っています。

研修症例の特徴

埼玉県がん診療指定病院の役割を担う地域中核病院で、救急・急性期診療、手術、内視鏡検査、化学療法、緩和医療など、一般・消化器外科、乳腺内分泌外科診療全般を行っています。
主な手術は、虫垂炎、腸閉塞、消化管穿孔、胆石症をはじめとする急性腹症、胃癌、大腸癌、乳癌、甲状腺癌等の悪性疾患、副甲状腺機能亢進症です。
また、心臓血管外科は心臓大血管、末梢血管と肺疾患の外科的治療を中心に24時間体制で対応しています。

診療科名

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、神経内科、感染症内科、人工透析内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科

社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院

〒861-4193　熊本県熊本市南区近見５丁目３番１号

TEL　096-351-8515　　FAX　096-351-4323
E-mail　sk-rinshokenshu@saiseikaikumamoto.jp

病　床　数	400	医 師 数(人)	206	１日平均外来患者数(人)	478.8	１日平均入院患者数(人)	363.7

病院の特徴

「医療を通じて地域社会に貢献します～質の高い医療を済生のこころとともに～」という理念のもと、「救急医療」「高度医療」「予防医療」「地域連携」「人材育成」を基本方針としています。また、JCI（Joint Commission International）認定病院であり、世界基準の安全管理・品質管理のもと日々診療を行っています。
急性期医療に重点をおき、緊急対応と同時にロボット支援手術、カテーテル治療などの低侵襲手術高度医療、がん治療など多岐にわたる分野で積極的に取り組んでおり、各分野の専門的知識、技術を持った多職種によるチーム医療を得意とします。

研修症例の特徴

当院では心臓血管外科を中心に研修を行います。非合併弁膜症手術の95%以上を完全胸腔鏡下MICS（小切開心臓手術）手術で行っており、過去480例以上経験を有します。九州ではda Vinciロボット支援心臓手術可能な数少ない施設です。また、大動脈疾患に対するステントグラフト治療を積極的に行っています。冠動脈バイパス術では同様にMICSを開始し経験数を重ねていきます。最先端の心臓手術、高難易度の心臓血管手術など他では経験できない研修が可能です。丁寧に理論的に手技を解説し、心臓手術の奥深さを知り興味を持って取り組んでいけるように指導します。

診療科名

内科、外科、消化器内科、消化器外科、整形外科、呼吸器内科、呼吸器外科、腫瘍内科、糖尿病内科、泌尿器科、腎臓内科、心臓血管外科、循環器内科、脳神経外科、脳神経内科、放射線科、麻酔科、救急科、病理診断科、リハビリテーション科

一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院

〒963-8563　福島県郡山市八山田七丁目115

TEL　024-934-5322　　FAX　024-922-5320
E-mail　kensyu@mt.strins.or.jp

病　床　数	461	医 師 数(人)	177	１日平均外来患者数(人)	1,710.9	１日平均入院患者数(人)	456.8

病院の特徴

福島県の県中地区である郡山市の中核病院です。地域医療支援病院であり、総合病院として様々な診療科を展開し、地域の医療に貢献する一方、先進医療機器（陽子線治療・BNCT・サイバーナイフ・ダヴィンチ）を積極的に導入し、全世界に向けて高度先進医療を提供しております。がん診療連携拠点病院として各科が連携し、高度ながん治療を実践しており、経験豊かな専門医師のもとに全国から患者が集まっています。
東京駅⇔郡山駅間は新幹線で約80分、大阪空港⇔福島空港間も飛行機で65分とアクセスも良好です。

研修症例の特徴

当院は市中病院の強みを最大限に生かして実践的な外科教育と最先端の技術導入にカを入れており、福島県の外科医療を支える市中病院として、高いレベルの手術を提供することを第一に、そして豊富な症例数を若手教育に役立てるための研修プログラムを作成しています。指導医陣は充実しており全国から様々なバックグラウンドの外科医が赴任しています。風通しの良い医局運営を心がけており、若手が安心して執刀経験が積めるようスタッフの情報共有を徹底し、専攻医が努力に見合った成果が得られるよう皆が注意を払う環境づくりをできていると思います。

診療科名

脳神経外科、整形外科、外科、消化器外科、心臓血管外科、形成外科、呼吸器外科、内科、消化器内科、脳神経内科、循環器内科、呼吸器内科、麻酔科、小児科、泌尿器科、リハビリテーション科、皮膚科、歯科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、精神科、アレルギー科、産婦人科、矯正歯科、放射線科、放射線診断科、放射線治療科、眼科、病理診断科

医療法人医和基会 戸畑総合病院

〒804-0025　福岡県北九州市戸畑区福柳木1-3-33
TEL　093-871-2760　　FAX　093-871-3990
E-mail　ikyokuhisho@iwakikai.com

病　床　数	193	医 師 数(人)	29	1日平均外来患者数(人)	222	1日平均入院患者数(人)	168

病院の特徴	当院は1952年に創設した北九州市戸畑区の中核病院で、病床数193床（急性期85床、地域包括ケア病棟108床）のケアミックス病院です。2016年７月に現在の場所に新築移転し診療体制をより一層充実させ地域医療に貢献しています。北九州市の二次救急医療機関に指定を受けており24時間365日、救急患者の受け入れを行っています。当院関連施設として福祉施設、障害者施設、保育施設など複数あり一貫した総合的医療・福祉を目指しています。
研修症例の特徴	プライマリー・ケアから内視鏡などの検査、手術そしてその後の外来フォローまで一貫して携わることのできる体制です。外傷や良性疾患から悪性疾患まで幅広く経験、研修することが可能です。
診療科名	総合内科、消化器内科、糖尿病内科、循環器内科、膠原病リウマチ科、呼吸器内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、人工関節センター、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、漢方外来、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、美容外来、認知症外来、歯科・口腔外科

付録 1 専攻医研修マニュアル

I 外科専門医研修の理念

外科専門研修プログラムに基づき病院群が以下の専門医の育成を行うことを本制度の理念とする。なお、外科専門研修プログラムの研修期間は 3 年以上とする。

外科専門医とは医の倫理を体得し、一定の修練を経て、診断、手術適応判断、手術および術前後の管理・処置、合併症対策など、一般外科医療に関する標準的な知識とスキルを修得し、プロフェッショナルとしての態度を身に付けた医師である。規定の手術手技を経験し、一定の資格認定試験を経て認定される。また, 外科専門医はサブスペシャルティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）やそれに準じた外科関連領域の専門医取得に必要な基盤となる共通の資格である。この専門医の維持と更新には、最新の知識・テクニック・スキルを継続して学習し、安全かつ信頼される医療を実施していることが必須条件となる。

II 外科専門医の使命

外科専門医は, 標準的かつ包括的な外科医療を提供することにより国民の健康を保持し福祉に貢献する. また, 外科領域診療に関わる最新の知識・テクニック・スキルを習得し, 実践できる能力を養いつつ, この領域の学問的発展に貢献することを使命とする。

III 外科専門研修後の成果

専攻医は専門研修プログラムによる専門研修により、以下の 6 項目を備えた外科専門医となる。

（1）外科領域のあらゆる分野の知識とスキルを習得する。
（2）外科領域の臨床的判断と問題解決を主体的に行うことができる。
（3）診断から手術を含めた治療戦略の策定、術後管理、合併症対策まですべての外科診療に関するマネージメントができる。
（4）医の倫理に配慮し、外科診療を行う上での適切な態度と習慣を身に付ける。
（5）外科学の進歩に合わせた生涯学習を行うための方略を修得する。
（6）外科学の進歩に寄与する研究を実践するための基盤的知識・方略を体得する。

IV 専門研修の目標

到達目標 1 (専門知識) :外科診療に必要な下記の基礎的知識・病態を習熟し、臨床応用できる。

（1）局所解剖 :手術をはじめとする外科診療上で必要な局所解剖について述べることができる。
（2）病理学 :外科病理学の基礎を理解している。
（3）腫瘍学
　①発癌過程、転移形成およびTNM 分類について述べることができる。
　②手術、化学療法および放射線療法を含む集学的治療の適応を述べることができる。
　③化学療法（抗腫瘍薬、分子標的薬など）と放射線療法の有害事象について理解している。
（4）病態生理
　①周術期管理や集中治療などに必要な病態生理を理解している。
　②手術侵襲の大きさと手術のリスクを判断することができる。
（5）輸液・輸血 :周術期・外傷患者に対する輸液・輸血について述べることができる。
（6）血液凝固と線溶現象
　①出血傾向を鑑別しリスクを評価することができる。
　②血栓症の予防、診断および治療の方法について述べることができる。
（7）栄養・代謝学
　①病態や疾患に応じた必要熱量を計算し、適切な経腸、経静脈栄養剤の投与、管理について述べることができる。
　②外傷、手術などの侵襲に対する生体反応と代謝の変化を理解できる。
（8）感染症
　①臓器特有、あるいは疾病特有の細菌の知識を持ち、抗菌薬を適切に選択することができる。
　②術後発熱の鑑別診断ができる。
　③抗菌薬による有害事象を理解できる。
　④破傷風トキソイドと破傷風免疫ヒトグロブリン投与の適応を述べることができる。
（9）免疫学
　①アナフィラキシーショックを理解できる。
　②移植片対宿主病（Graft versus host disease）の病態を理解し, 予防、診断および治療方法について述べることができる。
　③組織適合と拒絶反応について述べることができる。

（10）創傷治癒 :創傷治癒の基本を理解し、適切な創傷処置を実践することができる。
（11）周術期の管理 :病態別の検査計画、治療計画を立てることができる。
（12）麻酔科学
　①局所・浸潤麻酔の原理と局所麻酔薬の極量を述べることができる。
　②脊椎麻酔の原理を述べることができる。
　③気管挿管による全身麻酔の原理を述べることができる.
　④硬膜外麻酔の原理を述べることができる.
（13）集中治療
　①集中治療について述べることができる。
　②基本的な人工呼吸管理について述べることができる。
　③播種性血管内凝固症候群(disseminated intravascular coagulation) と多臓器不全(multiple organ failure) の病態を理解し、適切な診断・治療を行うことができる。
（14）救命・救急医療
　①蘇生術について理解し、実践することができる。
　②ショックを理解し、初療を実践することができる。
　③重度外傷の病態を理解し、初療を実践することができる。
　④重度熱傷の病態を理解し、初療を実践することができる。

到達目標 2（専門技能）:外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、それらの臨床応用ができる。

（1）下記の検査手技ができる。
　①超音波検査 :自身で実施し、病態を診断できる。
　②エックス線単純撮影、CT、MRI :適応を決定し、読影することができる。
　③上・下部消化管造影、血管造影等 :適応を決定し、読影することができる。
　④内視鏡検査 :上・下部消化管内視鏡検査、気管支内視鏡検査、術中胆道鏡検査、ERCP 等の必要性を判断し、読影することができる。
　⑤心臓カテーテル :必要性を判断することができる。
　⑥呼吸機能検査の適応を決定し、結果を解釈できる。
（2）周術期管理ができる。
　①術後疼痛管理の重要性を理解し、これを行うことができる。
　②周術期の補正輸液と維持療法を行うことができる。
　③輸血量を決定し、成分輸血を含め適切に施行できる。
　④出血傾向に対処できる。
　⑤血栓症の治療について述べることができる。
　⑥経腸栄養の投与と管理ができる。
　⑦抗菌薬の適正な使用ができる。
　⑧抗菌薬の有害事象に対処できる。
　⑨デブリードマン、切開およびドレナージを適切にできる。
（3）次の麻酔手技を安全に行うことができる。
　①局所・浸潤麻酔
　②脊椎麻酔
　③硬膜外麻酔（望ましい）
　④気管挿管による全身麻酔
（4）外傷の診断・治療ができる。
　①すべての専門領域の外傷の初期治療ができる。
　②多発外傷における治療の優先度を判断し、トリアージを行うことができる。
　③緊急手術の適応を判断し、それに対処することができる。
（5）以下の手技を含む外科的クリティカルケアができる。
　①心肺蘇生法――次救命処置(Basic Life Support)、二次救命処置(Advanced Life Suport)
　②動脈穿刺
　③中心静脈カテーテルの挿入とそれによる循環管理
　④人工呼吸器による呼吸管理

⑤気管支鏡による気道管理
⑥熱傷初期輸液療法
⑦気管切開、輪状甲状軟骨切開
⑧心嚢穿刺
⑨胸腔ドレナージ
⑩ショックの診断と原因別治療（輸液、輸血、成分輸血、薬物療法を含む）
⑪播種性血管内凝固症候群(disseminated intravascular coagulation) 、多臓器不全(multiple organ failure)、全身性炎症反応症候群(systemic inflammatory response syndrome) 、代償性抗炎症性反応症候群(compensatory anti-inflammatory response syndrome) の診断と治療
⑫化学療法（抗腫瘍薬、分子標的薬など）と放射線療法の有害事象に対処することができる。

（6）外科系サブスペシャルティまたはそれに準ずる外科関連領域の分野の初期治療ができ、かつ、専門医への転送の必要性を判断することができる。

到達目標 3（学問的姿勢）：外科学の進歩に合わせた生涯学習の基本を習得し実行できる。

（1）カンファレンス、その他の学術集会に出席し、積極的に討論に参加することができる。日本外科学会定期学術集会に 1 回以上参加する。
（2）専門の学術出版物や研究発表に接し、批判的吟味をすることができる。
（3）指定の学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表することができる。
（4）学術研究の目的で、または症例の直面している問題解決のため、資料の収集や文献検索を独力で行うことができる。

注 1。「学術集会や学術出版物に、症例報告や臨床研究の結果を発表」の具体的な外科専門医研修に必要な業績（筆頭者）は下記の合計 20 単位を必要とする（内訳は問わない）

【研究発表】

（1）日本外科学会定期学術集会 ……20 単位
（2）海外の学会 ……20 単位
例）American Society of Clinical Oncology など
（3）外科系（サブスペシャルティ）の学会の年次総会、定期学術集会 ……15 単位
例）日本消化器外科学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会、日本小児外科学会など
（4）全国規模の外科系（サブスペシャルティ）以外の学会の年次総会、定期学術集会 ……10 単位
例）日本消化器病学会、日本内視鏡外科学会、日本救急医学会、日本癌学会など
（5）外科系（サブスペシャルティ）の学会の地方会、支部会 …… 7 単位
例）研究発表-（3）参照
（6）各地区外科集談会 …… 7 単位
例）外科集談会、大阪外科集談会、九州外科学会、山陰外科集談会 など
（7）全国規模の研究会 …… 7 単位
例）大腸癌研究会、日本肝移植研究会、日本ヘルニア研究会 など
（8）地区単位の学術集会、研究会 …… 5 単位
例）北海道医学大会、四国内視鏡外科研究会、九州内分泌外科学会 など
（9）全国規模の外科系（サブスペシャルティ）以外の学会の地方会、支部会 …… 3 単位
例）研究発表-（4）参照
（10）その他 …… 3 単位

【論文発表】

（1）日本外科学会雑誌、Surgery Today ……20 単位
（2）英文による雑誌 ……20 単位
例）Journal of clinical oncology, Annals of Surgery など
（3）著作による書籍 ……20 単位
（4）外科系（サブスペシャルティ）の学会の和文雑誌 ……15 単位
例）研究発表-（3）参照
（5）全国規模の外科系（サブスペシャルティ）以外の学会の和文雑誌 ……10 単位
例）研究発表-（4）参照
（6）編纂された書籍の一部 ……10 単位
（7）その他 …… 7 単位

到達目標 4（倫理性、社会性など）：外科診療を行う上で、医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとして適切な態度と習慣を身に付ける。

（1）医療行為に関する法律を理解し遵守できる。
（2）患者およびその家族と良好な信頼関係を築くことができるよう、コミュニケーション能力と協調による連携能力を身につける。
（3）外科診療における適切なインフォームド・コンセントをえることができる。
（4）関連する医療従事者と協調・協力してチーム医療を実践することができる。
（5）ターミナルケアを適切に行うことができる。
（6）インシデント・アクシデントが生じた際、的確に処置ができ、患者に説明することができる。
（7）初期臨床研修医や学生などに、外科診療の指導をすることができる。
（8）すべての医療行為、患者に行った説明など治療の経過を書面化し、管理することができる。
（9）診断書・証明書などの書類を作成、管理することができる。

経験目標 1：外科診療に必要な下記の疾患を経験または理解する。

（1）消化管および腹部内臓
①食道疾患
1）食道癌
2）胃食道逆流症（食道裂孔ヘルニアを含む）
3）食道アカラシア
4）特発性食道破裂
②胃・十二指腸疾患
1）胃十二指腸潰瘍（穿孔を含む）
2）胃癌
3）その他の胃腫瘍（GIST など）
4）十二指腸癌
③小腸・結腸疾患
1）結腸癌
2）腸閉塞
3）難治性炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
4）憩室炎・虫垂炎
④直腸・肛門疾患
1）直腸癌
2）肛門疾患（内痔核・外痔核、痔瘻）
⑤肝臓疾患
1）肝細胞癌
2）肝内胆管癌
3）転移性肝腫瘍
⑥胆道疾患
1）胆道癌（胆嚢癌、胆管癌、乳頭部癌）
2）胆石症（胆嚢結石症、総胆管結石症、胆嚢ポリープ）
3）胆道系感染症
⑦膵臓疾患
1）膵癌
2）膵管内乳頭状粘液性腫瘍、粘液性嚢胞腫瘍
3）その他の膵腫瘍（膵内分泌腫瘍など）
4）膵炎（慢性膵炎、急性膵炎）
⑧脾臓疾患
1）脾機能亢進症
2）食道・胃静脈瘤
⑨その他
1）ヘルニア（鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア）
（2）乳腺

①乳腺疾患
1）乳癌
（3）呼吸器
①肺疾患
1）肺癌
2）気胸
②縦隔疾患
1）縦隔腫瘍（胸腺腫など）
③胸壁腫瘍
（4）心臓・大血管
①後天性心疾患
1）虚血性心疾患
2）弁膜症
②先天性心疾患
③大動脈疾患
1）動脈瘤（胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤、解離性大動脈瘤）
（5）末梢血管（頭蓋内血管を除く）
①閉塞性動脈硬化症
②下肢静脈瘤
（6）頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）
①甲状腺癌
②体表腫瘍
（7）小児外科
①ヘルニア（鼠径ヘルニア、臍ヘルニアなど）
②陰嚢水腫、停留精巣、包茎
③腸重積症
④虫垂炎
（8）外傷

経験目標 2（手術・処置）：一定レベルの手術を適切に実施できる能力を修得し、その臨床応用ができる。
（1）350 例以上の手術手技を経験（NCD に登録されていることが必須）。
（2）（1）のうち術者として 120 例以上の経験（NCD に登録されていることが必須）。
（3）各領域の手術手技または経験の最低症例数。
①消化管および腹部内臓（50 例）
②乳腺（10 例）
③呼吸器（10 例）
④心臓・大血管（10 例）
⑤末梢血管（頭蓋内血管を除く）（10 例）
⑥頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）（10 例）
⑦小児外科（10 例）
⑧外傷の修練（10 点）＊
⑨上記①～⑦の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）（10 例）
＊体幹（胸腹部）臓器損傷手術 3 点（術者）、2 点（助手）
・上記以外の外傷手術（NCD の既定に準拠）1 点
・重症外傷（ISS 16 以上）初療参加 1 点
・外傷初期診療研修コース受講 6 点
・e-learning 受講 3 点
・外傷外科手術指南塾受講（日本Acute Care Surgery 学会主催講習会）3 点
一般外科に包含される下記領域の手術を実施することができる。括弧内の数字は術者または助手として経験する各領域の手術手技の最低症例数を示す。

注 1（1）術者となるときは、指導責任者のもとに執刀する。また、当該分野の指導医また専門医と共に手術することが望ましい。
（2）「術者」とは、手術名に示された手術の主要な部分を実際に行った者である。
「助手」とは、手術の大部分に参加した者である。
（3）手術経験における「従事」とは、術者、あるいは助手として手術を行うことである。
（4）「⑤末梢血管」の手術は、原則として血管自体を露出したり、縫合したりする手技を対象とする。穿刺術は対象としない。
（5）「⑦小児外科」の手術は、原則として 16 歳未満が対象となる。
注 2。（1）修練期間中に術者または助手として、手術手技を 350 例以上経験する。
（2）前記の領域別分野の最低症例数を、術者または助手として経験する。
（3）前記の領域別分野にかかわらず、術者としての経験が 120 例以上であること。
（4）上記の具体的疾患名・手術手技名については、日本外科学会が編纂する「外科学用語集」を基に別表に定めるが、手術症例の登録にあたってはNCD のルールに従うものとする。
（5）当該領域での修練中に経験した症例は、原則として当該領域の症例としてカウントする。
（6）1 件の疾患につき複数の手技が行われていても、1 名がカウントできる手術経験は原則として 1 例とする（NCD に複数の手技が登録されていたとしても、利活用できるのは 1 手技分のみである）。ただし、異なる臓器の異なる疾患に対する同時手術の場合はそれぞれを 1 例としてカウントできることとするが、手術記録に術式名として記載されていることを要する。
（7）経験した症例はすべてNCD に登録しておく。経験症例数（350 例以上）としてカウントできるのはNCD に登録された症例のみである。

経験目標 3：地域医療への外科診療の役割を習熟し、実行できる。
（1）連携施設（または基幹施設）において地域医療を経験し、病診連携・病病連携を理解し実践することができる。
（2）地域で進展している高齢化または都市部での高齢者急増に向けた地域包括ケアシステムを理解し、介護と連携して外科診療を実践することができる。
（3）在宅医療を理解し、終末期を含めた自宅療法を希望する患者に病診または病病連携を通して在宅医療を実践することができる。

V 専門研修の方法
（1）臨床現場での学習（OJT）
専攻医は専門研修施設群内の施設で専門研修指導医のもとで研修を行う。専門研修指導医は，専攻医が偏りなく到達（経験）目標を達成できるように配慮する。
①定期的に開催される症例検討会やカンファレンス、抄読会、CPC などに参加する。
②350 例以上の手術手技を経験（NCD に登録されていることが必須）。
③②のうち術者として 120 例以上の経験（NCD に登録されていることが必須）
④各領域の手術手技または経験の最低症例数は前述のとおり
（2）臨床現場を離れた学習（OffJT）
学会やセミナーに参加する。セミナーには学会主催または専門研修施設群主催の教育研修（医療安全、感染対策、医療倫理、救急など）、臨床研究・臨床試験の講習、外科学の最新情報に関する講習や大動物（ブタ）を用いたトレーニング研修などが含まれる。
（3）自己学習
自己学習は、生涯学習の観点から重要である。書籍や論文などを通読して幅広く学習する。さらに日本外科学会が作成しているビデオライブラリーや日本消化器外科学会が用意している教育講座（e ラーニング）、各研修施設群などで作成した教材などを利用して深く学習する。

VI 専門研修の評価（自己評価と指導医等による評価）
（1）フィードバック（形成的評価）
専攻医の研修内容の改善を目的として、随時行われる評価である。
①専攻医は研修状況を研修マニュアル（手帳）で確認と記録を行い、経験した手術症例をNCD に登録する。
②専門研修指導医が形成的評価（フィードバック）を行い、NCD の承認を行う。
③研修施設の移動やローテーションなど一定の期間毎（3 か月～ 1 年毎 プログラムに明記）に、研修マニュアルにもとづく研修目標達成度評価を行い、研修プログラム管理委員会に報告する。
④研修プログラム管理委員会は中間報告と年次報告の内容を精査し、次年度の研修指導に反映させる。

（2）研修修了判定（総括的評価）
①知識、病態の理解度、手術・処置手技の到達度、学術業績、プロフェッショナルとしての態度と社会性などを評価する。研修プログラム管理委員会に保管されている年度ごとに行われる形成的評価記録も参考にする。
②専門研修プログラム管理委員会で総括的評価を行い、満足すべき研修を行いえた者に対して専門研修プログラム統括責任者が外科専門医研修修了証を交付する。
③この際、多職種（看護師など）のメディカルスタッフの意見も取り入れて評価を行う。
付記 予備試験（筆記）の実施（下記IXの項を参照）

Ⅶ 専門研修プログラムの修了要件
日本専門医機構が認定した外科専門研修施設群において通算 3 年（以上）の臨床研修をおこない外科専門研修プログラムの一般目標、到達（経験）目標を修得または経験した者。

Ⅷ 専門研修の休止・中断、プログラム移動、未修了
（1）専門研修における休止期間は最長 120 日とする。1 年 40 日の換算とし、プログラムの研修期間が 4 年のものは 160 日とする。（以下同様）
（2）妊娠・出産・育児、傷病その他の正当な理由による休止期間が 120 日を超える場合、臨床研修終了時に未修了扱いとする。原則として、引き続き同一の専門研修プログラムで研修を行い、120 日を超えた休止日数分以上の日数の研修を行う。
（3）大学院（研究専任）または留学などによる研究専念期間が 6 か月を超える場合、臨床研修終了時に未修了扱いとする。ただし、大学院（研究専任）または留学を取り入れたプログラムの場合例外規定とする。
（4）専門研修プログラムの移動は原則認めない。（ただし、結婚、出産、傷病、親族の介護、その他正当な理由、などで同一プログラムでの専門研修継続が困難となった場合で、専攻医からの申し出があり、外科研修委員会の承認があれば他の外科専門研修プログラムに移動できる。）
（5）症例経験基準、手術経験基準を満たしていない場合にも未修了として取扱い、原則として引き続き同一の専門研修プログラムで当該専攻医の研修を行い、不足する経験基準以上の研修を行うことが必要である。
注 1。長期にわたって休止する場合の取扱い
専門研修を長期にわたって休止する場合においては、①②のように、当初の研修期間の終了時未修了とする取扱いと、専門研修を中断する取扱いが考えられる。ただし、専門研修プログラムを提供しているプログラム統括責任者及び専門研修管理委員会には、あらかじめ定められた研修期間内で専攻医に専門研修を修了させる責任があり、安易に未修了や中断の扱いを行うべきではない。
①未修了の取扱い
1）当初の研修プログラムに沿って研修を行うことが想定される場合には、当初の研修期間の終了時の評価において未修了とすること。原則として、引き続き同一の研修プログラムで研修を行い、上記の休止期間を超えた休止日数分以上の日数の研修を行うこと。
2）未修了とした場合であって、その後、研修プログラムを変更して研修を再開することになった時には、その時点で臨床研修を中断する取扱いとすること。
②中断
1）研修プログラムを変更して研修を再開する場合には、専門研修を中断する取扱いとし、専攻医に専門研修中断証を交付すること。
2）専門研修を中断した場合には、専攻医の求めに応じて、他の専門研修先を紹介するなど、専門研修の再開の支援を行うことを含め、適切な進路指導を行うこと。
3）専門研修を再開する施設においては、専門研修中断証の内容を考慮した専門研修を行うこと。
4）プログラムの移動には、専門医機構の外科領域研修委員会の承認を受けることが必要である.
注 2。休止期間中の学会参加実績、論文・発表実績、講習受講実績は、専門医認定要件への加算を認めるが、中断期間中のものは認めない。

Ⅸ 予備試験（筆記試験）の申請
予備試験の申請は日本専門医機構外科領域認定委員会に提出する。
（1）受験資格
外科専門医研修期間を 2 年以上経過している。
（2）試験内容

到達目標 1（専門知識）、到達目標 2（専門技能）、経験目標 1（経験症例）について多肢選択式問題による試験を行う。
計 110 題（上部消化管＋下部消化管＋肝胆膵脾：約 45%、心臓＋血管：約 15%、呼吸器：約 10%、小児：約 10%、乳腺・内分泌：約 10%、救急＋麻酔：約 10%）を出題する。

Ⅹ 認定試験（面接試験）の申請
認定試験の申請は日本専門医機構外科領域認定委員会に提出する。
（1）受験資格
外科専門医研修プログラムを修了している。
予備試験に合格している。
（2）試験内容
到達目標 3・4、経験目標 2・3 について試問する。

Ⅺ 専門医の認定と登録
日本専門医機構は、次の各号のいずれにも該当する者を専門医と認定する.
（1）日本国の医師免許を有する者。
（2）認可された専門医機構外科領域専門研修プログラムを修了した者。
（3）予備試験、認定試験合格証。

Ⅻ 専門研修プログラムの評価と改善
（1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価
①毎年、専攻医は「専攻医による評価（指導医）」に指導医の評価を記載して研修プログラム統括責任者に提出する。
②毎年、専攻医は「専攻医による評価（専門研修プログラム）」に専門研修プログラムの評価を記載して研修プログラム統括責任者に提出する。
③研修プログラム統括責任者は指導医や専門研修プログラムに対する評価で専攻医が不利益を被ることがないことを保証する。
（2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス
①専門研修指導医および専門研修プログラムの評価を記載した「専攻医による評価」は研修プログラム統括責任者に提出する。
②研修プログラム統括責任者は報告内容を匿名化し、研修プログラム管理委員会で審議を行い、プログラムの改善を行う。些細な問題はプログラム内で処理するが、重大な問題に関しては外科研修委員会にその評価を委託する。
③研修プログラム管理委員会では専攻医からの指導医評価報告をもとに指導医の教育能力を向上させる支援を行う。
④専攻医は研修プログラム統括責任者または研修プログラム委員会に報告できない事例（パワーハラスメントなど）について、外科領域研修委員会に直接申し出ることができる。

付録２ 専攻医研修手帳

専攻医研修手帳

知識に関する到達レベルは
A: 病態の理解と合わせて十分に深く知っている。
B: 概念を理解し、意味を説明できる。

技術に関する到達レベルは
A: 複数回の経験（≧５）を経て、安全に術者または助手を実施できる、または判定できる。
B: 経験は少数例（１～３）だが、指導者の立ち会いのもとで安全に術者または助手を実施できる、または判定できる。
C: 経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる。

症例に関する到達レベルは
A: 主治医（主たる担当医）として自ら経験し、手術に参加した。
B: 間接的に経験している（実症例をチームとして経験した。または症例検討会を通して経験した）。
C: レクチャー、セミナー、学会で学習した。

	研修実績管理システム設定基準値	専攻医	指導医
到達目標１：外科診療に必要な下記の基礎的知識を習熟し、臨床応用できる。			
（１）局所解剖：手術をはじめとする外科診療上で必要な局所解剖について述べることができる。	A		
（２）病理学：外科病理学の基礎を理解している。	A		
（３）腫瘍学			
①発癌、転移形成およびTNM 分類について述べることができる。	A		
②手術、化学療法および放射線療法の適応を述べることができる。			
③化学療法（抗腫瘍薬、分子標的薬など）と放射線療法の有害事象について理解している。			
（４）病態生理			
①周術期管理などに必要な病態生理を理解している。	A		
②手術侵襲の大きさと手術のリスクを判断することができる。			
（５）輸液・輸血：周術期・外傷患者に対する輸液・輸血について述べることができる。	A		
（６）血液凝固と線溶現象			
①出血傾向を鑑別できる。	A		
②血栓症の予防、診断および治療の方法について述べることができる。			
（７）栄養・代謝学			
①病態や疾患に応じた必要熱量を計算し、適切な経腸、経静脈栄養剤の投与、管理について述べることができる。	A		
②外傷、手術などの侵襲に対する生体反応と代謝の変化を理解できる。			
（８）感染症			
①臓器特有、あるいは疾病特有の細菌の知識を持ち、抗菌剤を適切に選択することができる。	A		
②術後発熱の鑑別診断ができる。			
③抗菌剤による有害事象（合併症）を理解できる。			
④破傷風トキソイドと破傷風免疫ヒトグロブリンの適応を述べることができる。			
（９）免疫学			
①アナフィラキシーショックを理解できる。	A		
②GVHD の予防、診断および治療方法について述べることができる。			
③組織適合と拒絶反応について述べることができる。			
(10) 創傷治癒：創傷治癒の基本を述べることができる。	A		
(11) 周術期の管理：病態別の検査計画、治療計画を立てることができる。	A		

	研修実績管理システム設定基準値	専攻医	指導医
(12)麻酔科学			
①局所・浸潤麻酔の原理と局所麻酔薬の極量を述べることができる。	A		
②脊椎麻酔の原理を述べることができる。			
③気管挿管による全身麻酔の原理を述べることができる。			
④硬膜外麻酔の原理を述べることができる。			
(13)集中治療			
①集中治療について述べることができる。	A		
②レスピレータの基本的な管理について述べることができる。			
③DIC とMOF を理解し、適切な診断・治療を行うことができる。			
(14)救命・救急医療			
①蘇生術について述べることができる。	A		
②ショックを理解できる。			
③重度外傷の病態を理解し、初療を実践することができる。			

	研修実績管理システム設定基準値	専攻医	指導医
到達目標２：外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、それらの臨床応用ができる。			
(１)下記の検査手技ができる。			
①超音波診断：自身で実施し、病態を診断できる。	B		
②エックス線単純撮影、CT、MRI：適応を決定し、読影することができる。			
③上・下部消化管造影、血管造影等：適応を決定し、読影することができる。			
④内視鏡検査：上・下部消化管内視鏡検査、気管支内視鏡検査、術中胆道鏡検査、ERCP等の必要性を判断することができる。			
⑤心臓カテーテル：必要性を判断することができる。			
⑥呼吸機能検査の適応を決定し、結果を解釈できる。			
(２)周術期管理ができる。			
①術後疼痛管理の重要性を理解し、これを行うことができる。	A		
②周術期の補正輸液と維持療法を行うことができる。			
③輸血量を決定し、成分輸血を指示できる。			
④出血傾向に対処できる。			
⑤血栓症の治療について述べることができる。			
⑥経腸栄養の投与と管理ができる。			
⑦抗菌剤の適正な使用ができる。			
⑧抗菌剤の有害事象に対処できる。			
⑨デブリードマン、切開およびドレナージを適切にできる。			
(３)次の麻酔手技を安全に行うことができる。			
①局所・浸潤麻酔	C		
②脊椎麻酔			
③硬膜外麻酔			
④気管挿管による全身麻酔			
(４)外傷の診断・治療ができる。			
①すべての専門領域で、外傷の初期治療ができる。	B		
②多発外傷における治療の優先度を判断し、トリアージを行うことができる。			
③緊急手術の適応を判断し、それに対処することができる。			

	研修実績管理システム設定基準値	専攻医	指導医
(５)以下の手技を含む外科的クリティカルケアができる。			
①心肺蘇生法― 一次救命処置(Basic Life Support)、二次救命処置(Advanced Life Suport)	B		
②動脈穿刺			
③中心静脈カテーテルおよびSwan-Ganz カテーテルの挿入とそれによる循環管理			
④人工呼吸器による呼吸管理			
⑤熱傷初期輸液療法			
⑥気管切開、輪状甲状軟骨切開			
⑦心嚢穿刺			
⑧胸腔ドレナージ			
⑨ショックの診断と原因別治療(輸液、輸血、成分輸血、薬物療法を含む)			
⑩DIC、SIRS、CARS、MOF の診断と治療			
⑪化学療法と放射線療法の有害事象に対処することができる。			
(６)外科系サブスペシャルティの分野の初期治療ができ、かつ、専門医への転送の必要性を判断することができる。	A		

	研修実績管理システム設定基準値	専攻医	指導医
到達目標３：外科学の進歩に合わせた生涯学習の基本を習得し実行できる。			
(１)カンファレンス、その他の学術集会に出席し、積極的に討論に参加することができる。日本外科学会定期学術集会に１回以上参加する。	A		
(２)専門の学術出版物や研究発表に接し、批判的吟味をすることができる。			
(３)学術集会や学術出版物に、症例報告や臨床研究の結果を発表することができる。			
(４)学術研究の目的で、または症例の直面している問題解決のため、資料の収集や文献検索を独力で行うことができる。			

	研修実績管理システム設定基準値	専攻医	指導医
到達目標４：外科診療を行う上で、医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとして適切な態度と習慣を身に付ける。			
(１)医療行為に関する法律を理解し遵守できる。	A		
(２)患者およびその家族と良好な信頼関係を築くことができるよう、コミュニケーション能力と協調による連携能力を身につける。			
(３)外科診療における適切なインフォームド・コンセントをえることができる。			
(４)関連する医療従事者と協調・協力してチーム医療を実践することができる。			
(５)ターミナルケアを適切に行うことができる。			
(６)インシデント・アクシデントが生じた際、的確に処置ができ、患者に説明することができる。			
(７)初期臨床研修医や学生などに、外科診療の指導をすることができる。			
(８)すべての医療行為、患者に行った説明など治療の経過を書面化し、管理することができる。			
(９)診断書・証明書などの書類を作成、管理することができる。			

	研修実績管理システム設定基準値	専攻医	指導医
経験目標１：外科診療に必要な下記の疾患を経験または理解する。			
（１）消化管および腹部内臓			
①食道疾患：			
１）食道癌	B		
２）胃食道逆流症（食道裂孔ヘルニアを含む）			
３）食道アカラシア	C		
４）特発性食道破裂			
②胃・十二指腸疾患：			
１）胃十二指腸潰瘍（穿孔を含む）	B		
２）胃癌			
３）その他の胃腫瘍（GISTなど）	C		
４）十二指腸癌			
③小腸・結腸疾患			
１）結腸癌	A		
２）腸閉塞			
３）憩室炎・虫垂炎			
４）難治性炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）	C		
④直腸・肛門疾患			
１）直腸癌	A		
２）肛門疾患（内痔核・外痔核、痔瘻）			
⑤肝臓疾患			
１）肝細胞癌	A		
２）肝内胆管癌	C		
３）転移性肝腫瘍	B		
⑥胆道疾患			
１）胆道癌（胆嚢癌、胆管癌、乳頭部癌）	B		
２）胆石症（胆嚢結石症、総胆管結石症、胆嚢ポリープ）			
３）胆道系感染症			
⑦膵臓疾患			
１）膵癌	B		
２）膵管内乳頭状粘液性腫瘍、粘液性嚢胞腫瘍			
３）その他の膵腫瘍（膵内分泌腫瘍など）	C		
４）膵炎（慢性膵炎、急性膵炎）			
⑧脾臓疾患			
１）脾機能亢進症	C		
２）食道・胃静脈瘤			
⑨その他			
１）ヘルニア（鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア）	A		
（２）乳腺			
①乳腺疾患			
１）乳癌	A		
（３）呼吸器			
①肺疾患			
１）肺癌	A		
２）気胸			
②縦隔疾患			
１）縦隔腫瘍（胸腺腫など）	C		

	研修実績管理システム設定基準値	専攻医	指導医
③胸壁腫瘍	C		
（４）心臓・大血管			
①後天性心疾患			
１）虚血性心疾患	B		
２）弁膜症			
②先天性心疾患	B		
③大動脈疾患			
１）動脈瘤（胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤、解離性大動脈瘤）	B		
（５）末梢血管（頭蓋内血管を除く）			
１）閉塞性動脈硬化症	B		
２）下肢静脈瘤			
（６）頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など			
１）甲状腺癌	C		
２）体表腫瘍			
（７）小児外科			
１）ヘルニア（鼠径ヘルニア、臍ヘルニアなど）	B		
２）陰嚢水腫、停留精巣、包茎			
３）腸重積症			
（８）外傷	A		

経験目標２：外科診療に必要な各領域の手術を経験する。	
一般外科に包含される下記領域の手術を実施することができる。括弧内の数字は術者または助手として経験する各領域の手術手技の最低症例数を示す。	
①消化管および腹部内臓（50例）	（　　）例
②乳腺（10例）	（　　）例
③呼吸器（10例）	（　　）例
④心臓・大血管（10例）	（　　）例
⑤末梢血管（頭蓋内血管を除く）（10例）	（　　）例
⑥頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）（10例）	（　　）例
⑦小児外科（10例）	（　　）例
⑧外傷の修練（10点）	（　　）点
⑨上記①～⑧の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）（10例）	（　　）例

	研修実績管理システム設定基準値	専攻医	指導医
経験目標３：地域医療への外科診療の役割を習熟し、実行できる。			
（１）連携施設（または基幹施設）において地域医療を経験し、病診連携・病病連携を理解し実践することができる。	B		
（２）地域で進展している高齢化または都市部での高齢者急増に向けた地域包括ケアシステムを理解し、介護と連携して外科診療を実践することができる。			
（３）在宅医療を理解し、終末期を含めた自宅療法を希望する患者に病診または病病連携を通して在宅医療を実践することができる。			